桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い
芳名録から

昭和2年6月7日来桐

内ケ崎作三郎（1877～1947）

学者・政治家

歴史に立ち合う

松本清張の「昭和史発掘」に、１９３４年11月の天皇誤導事件にふれたくだりがある。

陸軍特別大演習統監を終わった天皇が群馬県各地を回り、桐生では、桐生市立西小学校、続いて桐生高等工業学校に向かうことになっていたのだが、お召自動車の前を走る先駆車が順路を間違えるという失態をおかした有名な出来事である。

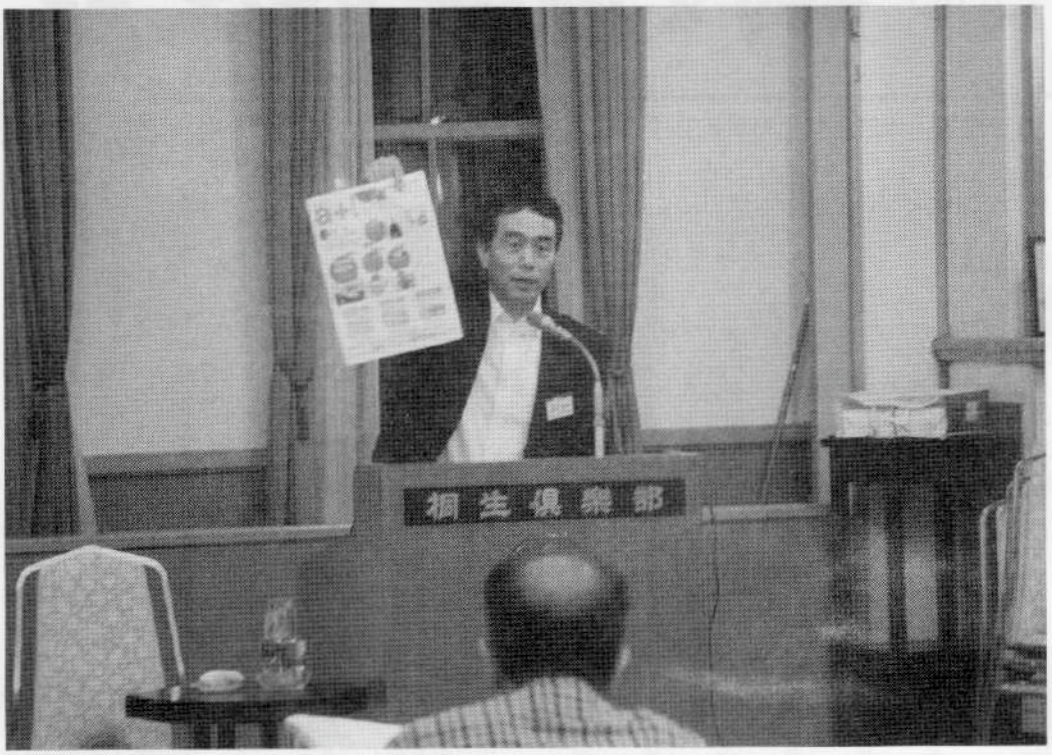
「あり得べからざることが起った。最初に西小学校には行かずに、二番目にまわるはずの桐生高工にいきなり先導車を乗りつけてしまった。むろん、お召車も、うしろに従く五十四台の供奉車もぞろぞろと数珠つなぎにひっぱられてきた。おどろいたのは桐生高工に待っていた市の名士連中で、御到着にはまだ間があると思って煙草を喫みながら雑談していたところを不意打ちである。周章狼狽し、内ケ崎作三郎政務次官などは、モーニングを脱いで、ステテコ姿だったので色を失ったという」

先駆車の警部は割腹自殺を図り、一連の責任者は処分された。桐生市民は11月22日午前９時41分、宮城に向かって一斉に黙とうし、わびたと、桐生彩時記（桐生タイムス社）にある。

内ケ崎は宮城県生まれ。東大を出て、オックスフォードで学び、社会政策を研究し、早大教授となった。１９２４年、憲政会から代議士に当選して、浜口内閣の内務参与官、第一次近衛内閣の文部政務次官を務めた。田中義一内閣の治安維持法改定に反対したことで知られている。

ただ桐生市のおもだった昭和史料は、文部大臣松田源作がこの場にいたことについては記しているが、内ケ崎に関しての記述は見当たらない。

市民のラジオFM桐生をめざして



月次会報告(9月)

塩崎さんが講演

場の提供と即時性

9月の月次会は「市民のラジオFM桐生をめざして」と題し、FM桐生取締役で、倶楽部社員でもある塩崎泰雄さんが、コミュニティーFMの役割と今後の展開について、講演した。

ことしの7月1日に開局したFM桐生は、桐生ガスプラザ3階にスタジオを持ち、桐生ガス本社のアンテナから、周波数77.7メガヘルツ、出力20ワットで、いちにち24時間、さまざまな番組を発信している。小範囲・小出力のメディアながら15万人の聴取が可能といわれ、市民に多彩な場を提供することで新たな地域づくりへの貢献、さらに、災害時における即時性という点においても、大きな期待が集まっている。

開局にあたっては、市内の有力企業9社が出資して、その運営をNPOをはじめとする市民団体がひきうけている。コンテンツの90%以上を独自に作成しているのも大きな特徴だ。

「みんなで作るFM桐生」のコンセプトは、市民参加型の放送局で、「情報を発信したい市民が同じ思いを持つ方々と一緒に番組を作って放送してもらい、私たちは、情報が発信しやすくなるようなお手伝いをする」と塩崎さん。市民と共に歩んでいくと、方向性は明確である。

現在は、事業をいかに効率よく進め、資金を有効に生かしていくか、さらに、新たな展開のための広告収入の拡大など、安定運営に向けた取り組みに知恵を絞っている最中で、スタッフはみな心意気で支えてくれているとか。

多くの市民にこのコミュニティーFMの存在を知ってもらい、利用してもらい、広告媒体としても大いに活用してもらえればと、話していた。

(9月19日、2階大ホール、参加者28人)

初秋の谷川をゆく

山頂は雨まじり　歩く会 9月例会

９月９日(日)、重陽の日……である。この日は、桐生倶楽部「歩く会」の山行日、本日の参加者は10名の予定……。集合時刻・午前６時には全員が揃い、自動車二台に分乗して定刻に出発。お空は曇。

暑くなく、寒くなく、風もなく、“絶好の登山日和”を思いつつ、自動車は新里から「空っ風街道」と、何となく気の抜けた名前を付けられた（誰の命名やら……？）第二南面道路をひた走る。赤城ＩＣから関越道に入り、自動車の流れも順調で、７時30分頃水上ＩＣを通り抜け、途中のコンビニで買い出しを兼ね、小休止となった。天神平下の駐車場には８時30分に到着し、概ね、予定通りかな……！

本日のコースは、ロープウェイを利用して天神平から山頂に至る、最もポピュラーなコースとした。（私は、このコースは10年振り以上である。）

私たち「桐生倶楽部御一行様」は、贅沢にもロープウェイ一両を独占して乗り込み、車窓から初秋の景色を楽しもうとしたが、生憎霧がどんどんと深くなり、私など「雨の降らないうちに帰りたいな……」と弱気になってきた。

ロープウェイから降りて、歩き出してからも、雨の心配から、つい歩調も足早になり、10時前には「熊穴沢避難小屋」を通過して、いよいよ上りにかかる。

初秋の日曜日の谷川岳……。さすがに登山客も多く、千葉県柏市から来た団体や新潟県田子町から見えたグループ等々多人数の人が互いに抜きつ抜かれつ、また混ざり合いながら一列になって山頂を目指していたら、とうとうポツリポツリと雨が降ってきて、「えっ、天気予報と違うじゃん……！」と気象予報士を恨みながら、ザックから傘を取り出した。

ところで、昨夜のＮＨＫの気象予報士は誰だったっけ……？半井さん……？、それとも平井君……？「もう信じないぞぉ…！」とブツクサ言いながら、登り続け、山頂近くの「肩の広場」に着く頃には雨も小降りとなり、しばし後続の方々の到着を待って７人で「トマの耳」と「オキの耳」の双耳峰を制する。

３人の方はペースが遅れているらしく、まだ頂上に、その姿が見えない。「今、３人はどの辺だろうか……？」と心配しながらも、空腹には勝てず、「肩の小屋」でしっかりと昼食を摂り、３人の到着を待っていた。

雨も止み、いよいよ下山……！３人の方とも早く合流しなければいけないし……と、ひたすら下りる……下りる。途中、多人数のグループが鎖場の下りにためらっていて大渋滞となっている。仕方なく、そのグループが鎖場を抜けるのを待っていると、いつの間にか、桐生倶楽部の面々は全員勢揃いとなっていた。これで、全員、天神平に……。

駐車場で、登山靴をサンダルに履きかえ、いよいよ ♨、♨、♨……（ニタッ！）帰る道すがら、最近営業を再開したという「湯の陣」でお風呂を

（４面に続く）

ようこそ倶楽部へ

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

(3面から続く)

もらうが、これが高い！お一人様￥980－。こうなると、私は吝嗇だから少しでも「元を取り返そう」と、普段でも長風呂なのに、余計長風呂となってしまう。案の定、今回も私がビリでした。

せっかくの谷川岳も、まだ紅葉に早く、深い霧で展望も楽しめなかったけれど、全員が無事登頂し、こうして温泉に浸り、汗を流して、疲れを取っている時の気分は何とも言い難い。

あとは、湯上りのビールで完璧……となるところだけれど本日は、私が当番で運転手のため、ビールが飲めない。コーラしか飲めないとは残念無念。

「湯の陣」を後にして、もう目指すのは、一路桐生倶楽部へ……。二台の自動車は往路と同じ道をたどり、予定よりも２時間も早く、17時30分桐生倶楽部に着いた。また、来月の「浅草岳」山行の参加を約束し合い、解散となった……が、心優しい桐生倶楽部の社員の方々は、「飲んべえの狩野」が、湯上りのビールも我慢して、ジッと堪えて運転した労を犒って下さる趣向なのか、急遽18時から某所で「下山祝い」の宴を設けていただき、私にとって感謝感激の一日となった。

それにしても、私はそんなに「飲んべえ……」と思われているのかしら……？普通だと思うけどなあ……！ねぇ……海野さん……！

塚越前理事長が百万円寄付

塚越平人前理事長が、来年に控えた桐生倶楽部９０周年行事にむけ、１００万円を寄付した。８月20日、阿部高久理事長に手渡した＝写真。

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

せせらぎの闇に消へゆく月見草　遠藤

飴切りを調子にのせる夜店かな　小池

すれ違ひ耳打ち交わす蟻の列　有阪

小さくなり孫の靴買う夜店かな　塚越

憧れは少年のまま月見草　大槻

音も無く跣足の僧や坐禅堂　久保田

八月

思はざる風の軽さや秋近し　小池

血圧に落着きありて秋近し　有阪

大小の西に向きたる瓜の馬　遠藤

盆栽の手入れも終へて秋近し　塚越

瓜の馬細き足して母乗せて　大槻

置き捨てし瓜の馬泣く野末かな　久保田

＝ 倶楽部だより ＝

【8月】
- 歩く会世話人会　（2日）
- 理事会　（6日）
- はぐるま句会　（27日）

【9月】
- 歩く会例会「谷川岳」　（9日）
- 理事会　（10日）
- 歩く会世話人会　（11日）
- 月次会
  「市民のラジオＦＭ桐生をめざして」（19日）
- はぐるま句会　（28日）

【退社社員】

中村　兼吉　　田村　忠之

社団法人　桐生倶楽部会報　第161号
２００７年（平成19年）　10月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い
芳名録から

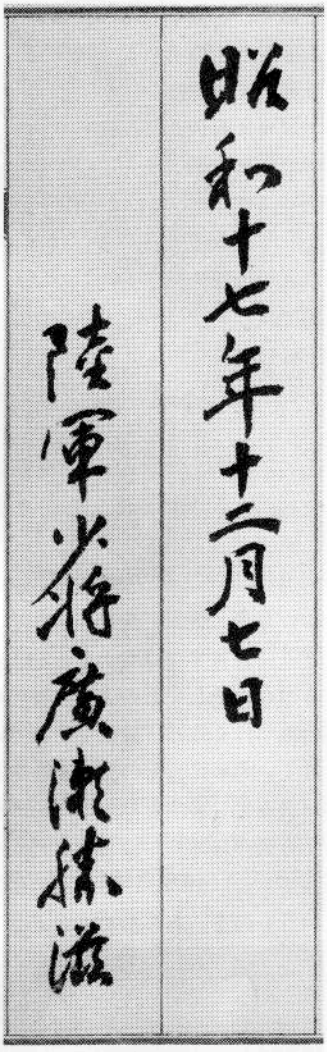
突然の市長の椅子

1942年12月7日来桐

広瀬勝滋（ひろせかつしげ）

（1884～1958）

軍人・桐生市長



困難な時代の市政でありながら、後世、存任した市長の業績を含めて、ほとんど顧みられることのない1年5か月間がある。

昭和19年の5月16日から20年11月1日まで、終戦を挟んだこの期間、桐生市長をつとめたのは広瀬勝滋である。大分県出身のエリート軍人だった広瀬は、軍暦の大半を教育畑ですごし、将官にのぼりつめ、秋田連隊区指令官から桐生高等工業の配属将校となったのが縁で桐生に住みついた。

当時の市長は、市議会議員の間接選挙で選ばれており、荻野欽司市長の再選を阻止しようと、反荻野派は当初、同校校長、西田博太郎を推そうとしていた。しかし、根回しの段階で急きょ広瀬に白羽の矢が立ち、対抗馬として担ぎ出された。結果は1票差での当選。広瀬にとって、まったく予想だにしなかった首長の椅子だったようである。

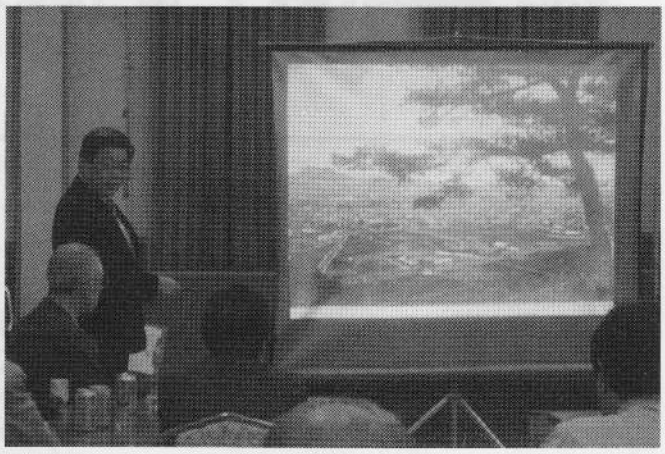
軍人一筋の実直な性格は、複雑怪奇な政治の世界にあって、政客のなすがままに浮き沈みを繰り返し、戦前はまったくその存在感を示すことができなかった。また、敗戦から一気に民主主義へと激動する時代に、首長として、考え、行動しているにもかかわらず、その後の大沢菊太郎、初の公選市長前原一治に比べて、印象はぐっと薄い。

市長を辞した後、公職追放令によって桐生を去るが、前原市長時代に訪れて、「庁内の掃除でもやらせてくれないか」と言い出した。愛馬に騎乗して出勤するりりしい軍服姿を知る前原は、あまりの変わりように驚いて、清掃監督なるポストを設けて雇ったが、広瀬は過去の栄光をすっぱりと断ち切って、黙々と仕事に励んでいたという。

月次会報告

絵はがきで時間旅行

川島さん講師に明治大正の古里



10月の月次会は「絵はがきから明治、大正の桐生を見る」と題し、写真をしるべに昔のふるさとを散歩した。講師は社員の川島伸行さん。

足早な時代の移り変わりの中で、10年前のまちの姿すらあやふやになってしまう昨今。まして昭和を越え、大正、明治にさかのぼると、ひとつの記録から現代との接点を探し出すのは容易ではない。しかし、場所や時代を特定するヒントはけっこうあるものですと、川島さんはいう。

むかしの桐生の絵はがきや写真を集め、そこに収められている地域のにおい、物語を丹念に拾い出している川島さんは、「きりふ」という印刷物を編集し、ここで解説を続けており、現在、第12号までまとまっている。

当日はそうした収集資料の中から、むかし懐かしい写真、珍しい情景をスライドにして、写真のどこに着目すれば時代を特定するような情報があるのか、そしてどのような資料に当たって謎解きの裏づけを取り、確度を高めていくか、川島さんはていねいに、その方法論をひもといた。

次々と登場する桐生のまちのむかしの姿は、とても雄弁にありし日を語り、人々の息づかいを伝えてくる。50年、100年という月日がもつ意味というものを、あらためて考えさせられる。参加者は、心静かに時間旅行を楽しんだ。

（10月16日、２階大広間、参加者29人）

絹蚕業遺産群を守り継ぐ

世界遺産推進室長が講演

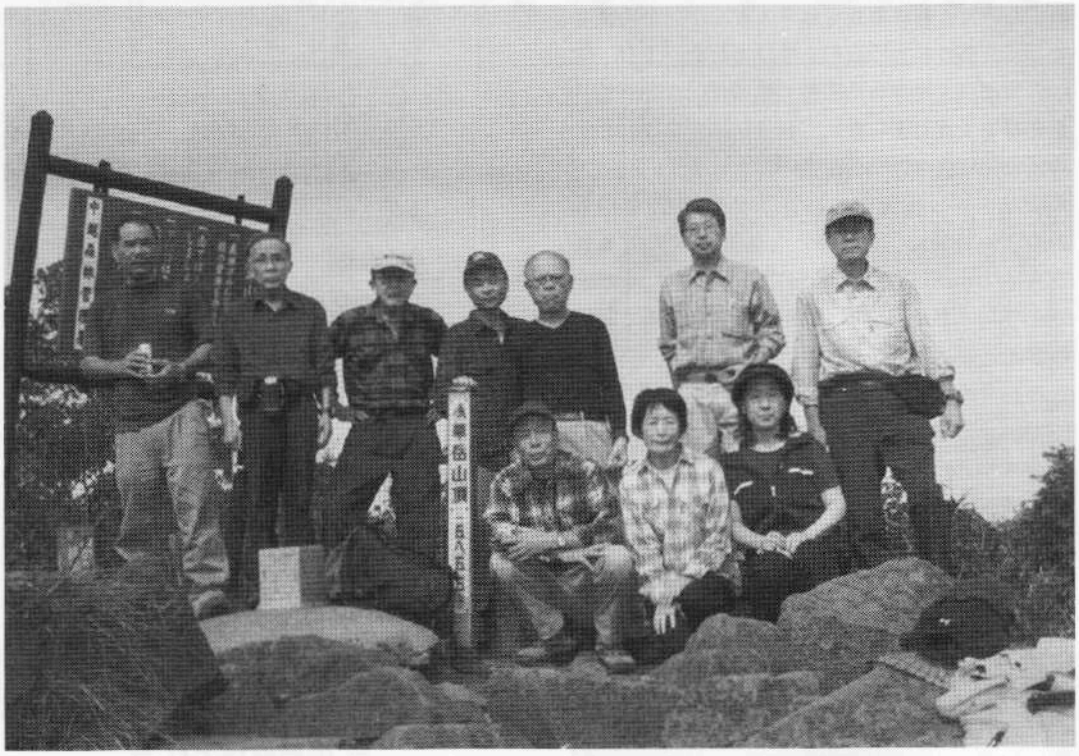
11月の月次会は、群馬県世界遺産推進室長の松浦利隆さんを講師に招き、「シルクカントリーぐんま」をテーマにして、絹産業遺産群の現状とその取り組みについて、学んだ。

繊維は、私たちの暮らしを支え、生活文化をはぐくみ、国の基礎を築いてきた産業である。群馬県は繭や生糸の生産、製糸、織物、すべての分野において日本をリードし、たくさんの知恵を蓄積してきた地域である。この文化を、世界遺産として後世に残していきたいと、各地でさまざまな活動が展開されている現在である。

松浦さんはその取りまとめ役を担っており、養蚕農家群としての六合村赤岩地区、伊勢崎市の島村、富岡製糸場のこと、蚕種の天然冷蔵庫である風穴の役割、新町紡績所の現状、織都を象徴する桐生市の本町一、二丁目建物群の保存への取り組みなどについて語り、さらなる理解と、ネットワークのきずなが、今後の推進において、確かな力となっていくことを強調した。

（11月16日、２階大広間、参加者21人）

紅葉の浅草岳を満喫



健脚、散歩、写真それぞれ

歩く会　10月例会

「初秋のハイキング」という訳で、少し早い秋を見つけようと、14日（第２日曜）に12名の参加で小型マイクロバスにて午前5：00桐生クラブ出発。

関東地方曇り、新潟は晴れるかも？の天気予報に気をもみながら、赤城SA、大和SAで小休止、小出インターと走る程に晴天となり、ネズモチ平登山口へ8：30着、各自歩行の準備のあと、記念写真。

8：50山行スタート。林道を30分程歩くと「桜曽根」ここで小休止、いよいよ山道へ入る、歩きづらい急坂を登る事20分位で見晴しの良い道になる。この辺りから少しづつ山肌が色づき初め、ススキが銀色に輝いて美しい。前方に「前岳」が見えるあたりから、みごとな草紅葉と赤・黄色・緑が山一面に広がって見事な紅葉が目に飛び込んで、疲れも忘れてカメラを向ける、そして予定より早く11：10山頂（標高1585㍍）へ立つ。

360度の眺望で近くに「守門岳」眼下には「田子倉湖」がキラキラ……景色を眺めながらの賑やかな昼食も、後続の登山者が多くなったので切り上げて、12：00下山にかかる。

健脚組、ゆっくり組、写真組に分かれネズモチ平登山口へ、前後40分位の時間差で到着、今日も元気に全員完歩14：10着、14：20バス乗車、そのまま「浅草山荘」へ直行で予定より早く下山出来たので、60分の入浴タイム、ここでも20分位で風呂から上り、散歩組、写真組、一寸イッパイ組、そして出発直前にバスに飛び乗る人、本日のスケジュール全て完了で15：40帰路につく。

車中はいつも通りのおしゃべり、それでも心地良い疲れにまもなくスヤスヤとなり途中１回小休止で予定より30分早く19：00桐生クラブ着、オツカレサマ！　（中里 記）

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

秋冷や妻の手料理褒めにけり　大槻
通勤に親しくなりし猫じやらし　小池
秋冷や石見銀山羅漢群　有阪
ねこじやらし澄み渡る空に弧を描き　塚越
重陽や百歳万歳誕生日　遠藤
月光の波を枕に砂の風呂　久保田

十月

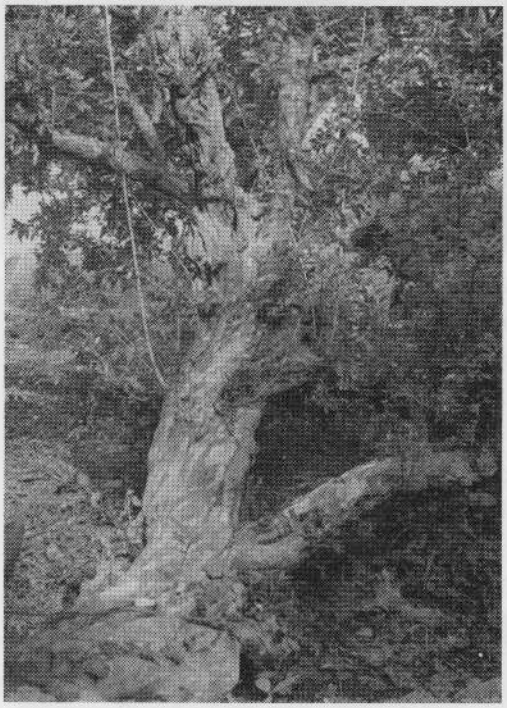
雨続く染屋の庭の破れ芭蕉　小池
無人駅風吹くのみの暮の秋　大槻
僧の掃く箒の跡目秋深む　遠藤
薫堆越えてはるか赤城横雲流る　有阪
薫塚の影薄くなる夕べかな　塚越
越後路の雨に薫塚眠りおり　久保田

塚越さん、池田さんに銀盃

全国高等学校定時制通信制教育６０周年記念式典において、前理事長塚越平人さんが記念功績者として文部科学大臣表彰を受けました。また、秋の叙勲では、地方自治功労で池田光二さんが旭日単光章を受賞しました。二社員には、２００８年の新年互礼会の席で、銀盃が贈られます。

塚越さんは桐生市の教育委員を1962年から76年まで務め、72年から４年間は教育委員長。76年から80年までは県教育委員も務め、79年から１年間、教育委員長。56年から現在まで県高等学校定時制通信制教育振興会の副会長。桐生地区の副会長にも就いている。

池田さんは1978年に公平委員に就任し、５期20年をつとめた。



ザクロ元気です

100歳、台風に負けず

ことし９月の台風９号で根本から倒れた樹齢約100年のザクロの木は、そのままの姿で実りの秋を迎え、色づき、葉はいまも元気そのもの。

会館の歴史とともに歩んできた数少ない庭木だけに、がんばってほしいものです。

＝ 倶楽部だより ＝

【10月】
- 理事会　(9日)
- 歩く会例会「谷川岳」　(14日)
- 月次会　(16日)
- 歩く会世話人会　(17日)
- ＪＣ役員との懇談会　(22日)
- はぐるま句会　(30日)

【11月】
- 90周年準備委員会　(7日)
- 歩く会例会「氷室山」雨天中止　(11日)
- 理事会　(12日)
- 歩く会世話人会　(13日)
- 写真部会　(15日)
- 月次会「シルクカントリーぐんま」　(16日)
- 行事委員会　(22日)
- 文化活動委員会　(26日)
- 90周年準備委員会　(29日)
- はぐるま句会　(30日)

【退社社員】

河原井源次

社団法人　桐生倶楽部会報　第162号
２００７年（平成19年）　12月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い
芳名録から

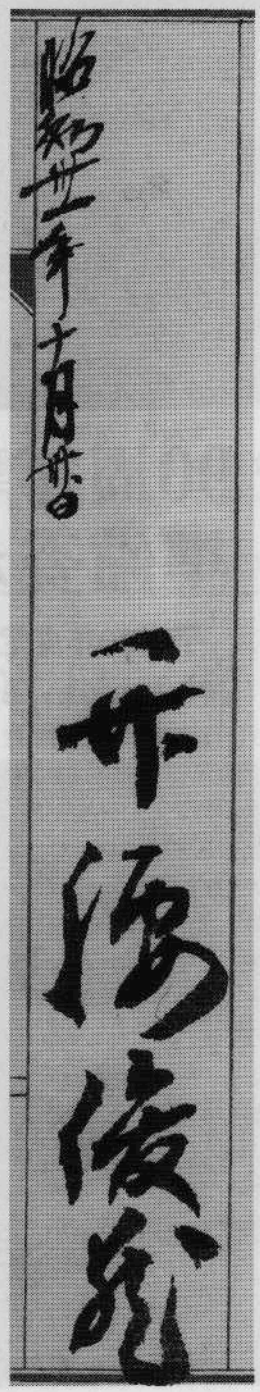
昭和31年10月30日来館

竹腰俊蔵（たけこしとしぞう）

（1895～1963）

群馬県知事

兄の身代わり、３日で当選



竹腰俊蔵は箕郷町の生まれである。群馬県師範学校を卒業して後、伊香保小学校訓導を振り出しに、各校の校長を歴任し、県の教育委員も務めるなど、教育畑を黙々と歩いてきたが、ある日、突然の方向転換を余儀なくされて、群馬県知事となった。そこには実はこんなわけがある。

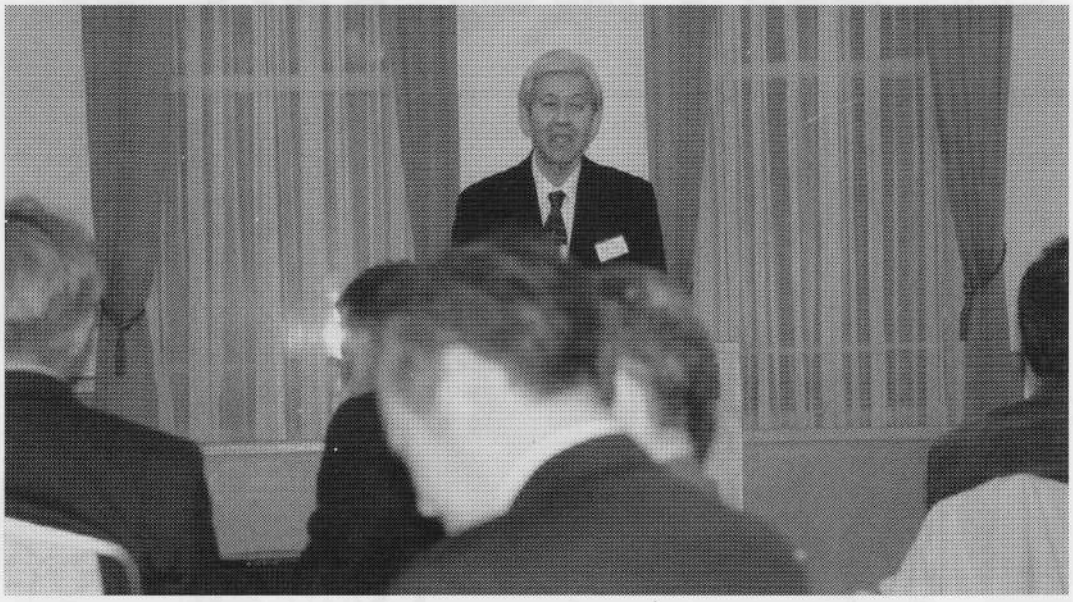
俊蔵の兄は政治家である。家業の酒造業を継いで徳蔵を名乗っていたが、大正期から連続６回県会議員に当選して政界に頭角を表し、１９４７年の参議院選挙には地方区の最高点で当選した。

その後、公職追放で失職し、解除後の52年に群馬県知事選に立候補し、このときは敗れたが、４年後の知事選にも出馬し、有利な戦いを展開していたのだが、こともあろうに、投票３日前に急死してしまったのだ。この緊急事態に、身代わりの候補者として担ぎ出され、わずか３日間の選挙戦で見事に当選してしまったのが俊蔵である。

実兄の弔い合戦を全面に押し出して、政党の公認候補を寄り切ったもので、当時の上毛新聞は「恐るべき仁侠の力」と選挙結果を回顧した。

60年まで、４年間を務めた。

女性社員受け入れへ



90周年事業で準備委が発足

平成20年度定時社員総会

桐生倶楽部の平成20年度定時社員総会が1月31日に開かれて、新年度予算案など4議案と創立90周年にかかわるさまざまな事業が承認された。なかでも大きな変革は、会員増強の一環として、創立以来90年間、男性会員だけで運営されてきた倶楽部に女性会員を受け入れることになった点。阿部理事長は「女性の進出がどの世界でも当然の姿になっている。歴史の必然として受け入れたい」と決断の背景を語った。こんごは、登録文化財である会館の維持管理という倶楽部の重要な役割をしっかり果たしていくために、法人会員や女性会員の確保に向け、力を尽くしていくことになった。

また、創立90周年記念式典が10月10日に催されることになり、準備委員会も発足した。

新年互礼会、琴で花

平成20周年の桐生倶楽部新年互礼会が1月4日開かれ、阿部高久理事長は、倶楽部創立90周年の年に臨む決意を語った。式典では、笹川尭代議士、亀山豊文桐生市長、石原条みどり市長、佐藤富三桐生商工会議所会頭、桐生倶楽部顧問の近藤英一郎さんがあいさつ。三曲合奏研究グループの小島さんと原さんが琴の音色で花を添えた。

私は倶楽部よりも年上です

桐生倶楽部は私よりも年下だと、ユーモアを交えて新年のあいさつに立った近藤英一郎さんはことし94歳。「こうやって、またみなさんにお会いできるのが、うれしいですね」と、ハリのある声を響かせて、満場の拍手をあびた。

初登り 恒例の吾妻山

平成20年1月例会

午前9時、吾妻公園で賀詞交歓をして初登り。村松沢を下って、「そば一」で新年会。

（1月13日）

歩く会

紅葉狩りと小江戸散策

平成19年12月例会

「平林寺境内での紅葉狩り」と「小江戸川越」の日帰り旅行を楽しんだ。（12月9日）

ようこそ倶楽部へ

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

盛大にクリスマス祭

たくさんの企画楽しむ

桐生倶楽部恒例のクリスマス祭が12月15日に行われ、会場となった2階大広間には社員とその家族64人が参加して、盛りだくさんの企画を楽しんだ。おなじみのミニコンサートは須永由紀子さんのピアノと山崎真由美さんのソプラノ。子どもたちにはたくさんのクリスマスプレゼントが用意され、サンタクロースの登場で、会場は明るい歓声に沸きかえっていた。

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

初冬の老を見舞ふやぞつき本　小池

桐生和紙伝ふ一戸やお茶の花　遠藤

ことのほかコーヒー香る今朝の冬　大槻

狛犬の凛と立ちゐて神の留守　有阪

茶摘女の姉さんかぶり風涼し　塚越

茶の花や機音小さき峡の村　久保田

十二月

まつすぐに風抜けて来る枯木立　大槻

枯木立真向ふ先に遠雪嶺　有阪

千菜わけ一束毎の寒さかな　塚越

帰郷せん千菜の匂ふ静けさに　小池

寒林のゆれて星影まばたけり　久保田

＝ 倶楽部だより ＝

【12月】
- 歩く会例会「平林寺の紅葉と小江戸川越」（9日）
- 理事会（10日）
- 歩く会世話人会（13日）
- クリスマス祭（15日）
- はぐるま句会（26日）

【1月】
- 新年互礼会（4日）
- 歩く会例会「吾妻山」ハイキング（13日）
- 正副理事長会議（15日）
- 理事会（15日）
- 歩く会世話人会（15日）
- 監査会（18日）
- 創立90周年実行委員会 代表者会議（28日）
- はぐるま句会（30日）
- 臨時理事会（31日）
- 定時社員総会（31日）

【退社社員】

阿部　冨圭・坂本能理雄

社団法人　桐生倶楽部会報　第163号
２００８年（平成20年）　2月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原 勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成20年4月10日　2008.　第164号（1）

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い
芳名録から

日本の諜報戦のスペシャリスト

1957年9月来館

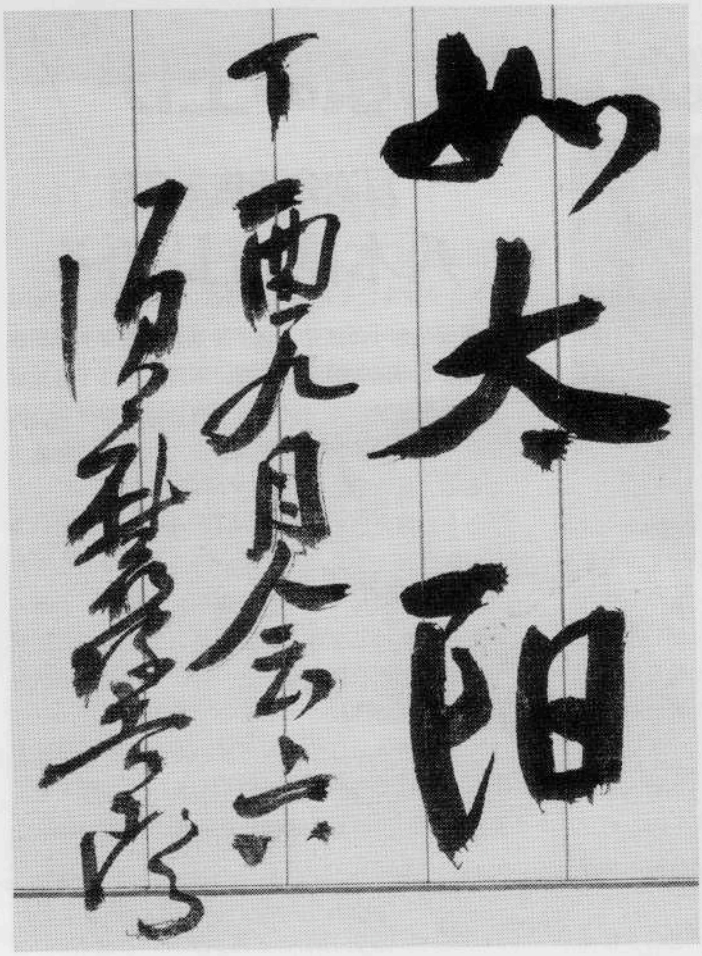
須磨弥吉郎（1892～1970）

政治家・外交官

桐生倶楽部で招いた記録は見当たらないが、改進党所属の衆議院議員を務めていたころの来桐である。「太陽の如く」と、おおらかな筆だ。

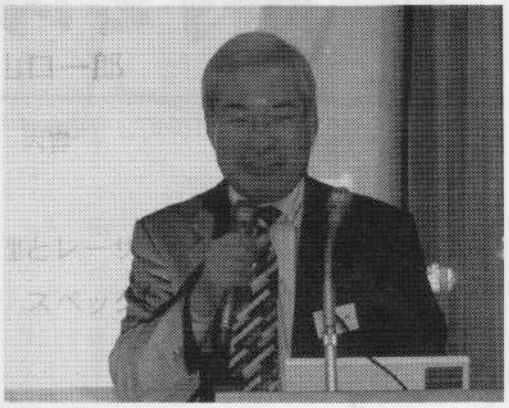
秋田県生まれで、中央大学を卒業後、外務省に入省し、中国に赴任して情報活動にあたり、大平洋戦争前の日米関係の緊張の中、スペイン特命全権公使として赴任し、アメリカの情報収集を目的とした東機関を開設したことで知られ、日本における諜報戦のスペシャリストである。

公職追放解除後の1953年に総選挙に出て、二期を務めた。絵画の収集家としても有名で、スペイン時代に購入した作品は、須磨コレクションとして現在長崎県美術館に所蔵されている。



ホログラフィ、めざましい世界

月次会報告・2月
山口さん講演



2月の月次会は、前群馬大学工学部教授で理化学研究所名誉研究員、山口一郎さんが「レーザー光とホログラフィ」をテーマに講演した。

私たちの身の回りではすでにさまざまな分野で実用化されているホログラフィは、近年目覚ましい進歩をとげているが、研究者としておよそ40年、山口さんが取り組んできた仕事が、そこで果たしてきた役割は大きい。

平面の中に本物そっくりの立体画像はなぜ浮かぶのか。山口さんはまず、光が持つ特性について述べ、光の回折という現象によって三次元画像を楽しむことができる仕組みを解説した。

コンピューターの進化、光通信やレーザーの実用化、デジタル化、ナノテク技術の進展で飛躍した世界である。今後ますます、その応用は広がっていくだろう、と語った。

（2月29日、2階大広間、参加者35人）

真に必要な事業の積み上げ

月次会報告・3月
八木副市長語る

3月の月次会は、桐生倶楽部の社員でもある桐生市の八木計二副市長を講師に招き、市の平成20年度予算と機構改革について、詳細を聞いた。

八木さんはまず、新年度予算の基本的な考え方である0ベース予算について、「既成概念や既得権にとらわれることなく、原点に返り、真に必要で市が行わなければならない事務事業を積み上げること」だと解説し、今回は、子どもを産み育てる環境づくり、安全で安心して住める環境づくりなど、重要政策課題に配慮したと述べた。

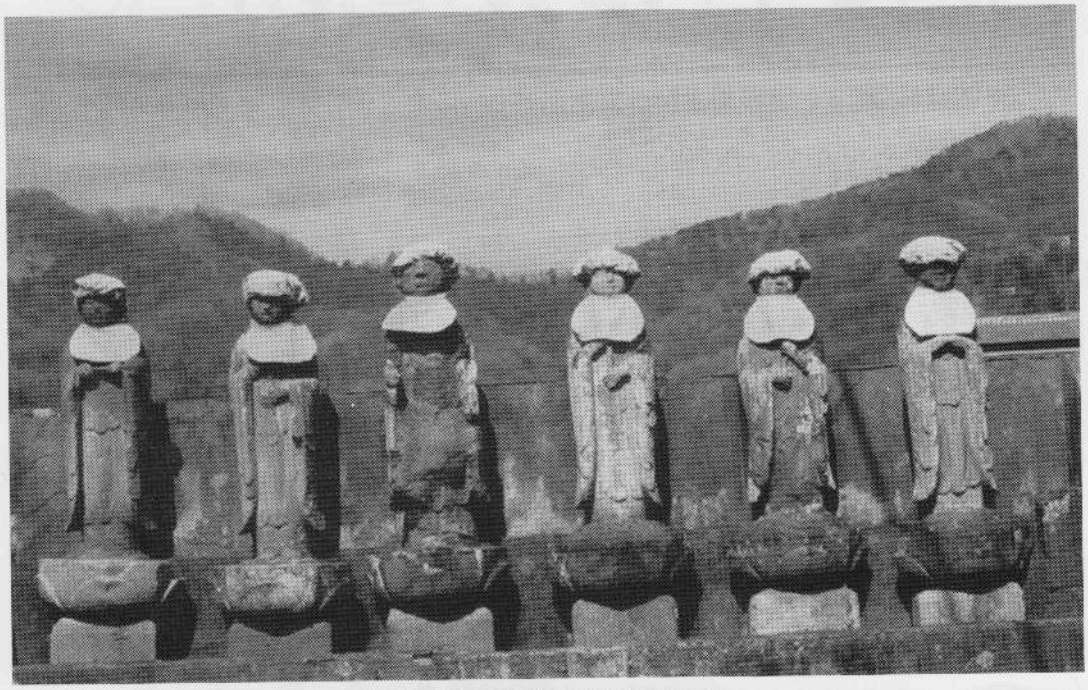
具体的には不妊治療費助成の新設、地域子育て支援センターの拡充、就学前児童の療育支援相談新設などの新規事業。また、本町一、二丁目地区周辺環境整備、電子メール一斉通報システム、木造住宅耐震診断技術者派遣事業について、考え方や運用方針を示した。

さらに市民との協働をいっそう充実させていきたいと、新たな地域活動を紹介。命題である人件費の削減に関しては職員数の削減や給料・手当ての削減、組合と交渉しながら努力中であると理解を求め、また、償還金などが財政を圧迫する状況は除々に改善されつつあると、報告された。

一方機構改革は、市民生活と市政のつながりをより円滑にするために窓口の一本化、個性あるまちづくりが推進できる機能の充実、組織の簡素化をめざす集約化の三本を柱にすえた。「市民にやさしい市役所に変わっていきたい」と語った。

（3月12日、2階大広間、参加者29人）

早春の足利・西稜をいく



春の日をあびて穏やかな表情の石仏

歩く会・3月例会

3月9日（日）、当初予定の「足尾・備前楯山」を積雪・路面凍結の為中止。急遽予定を変更して、足利市の西稜、大坊山～妙義山・大小山を縦走する山行とした。8：00腰塚さん運転の乗用車で倶楽部出発。

9：00足利大坊山南麓・大山祇神社の展望台駐車場を出発。足利市の南西端、大沼田町・中根・鷹巣地区を馬蹄型に囲む尾根伝いのハイキングコースを、風も無く暖かな陽光の中、3時間半かけての快適な山行。

最高峰は妙義山（標高314米）だが、2万5千の地図では2百米南の大小山（標高282米）と誤記されている。馬の背の分水嶺を幾度も上り下りする行程で、実際の標高差では7百米程の登山に等しいのではないか？麓の宅地の庭々には白梅が三分咲程度。今年は2月の気温が低かったせいか開花が遅い様子。

午後2：00倶楽部帰着。参加者、腰塚・海野・糸井・栗原・村田の5名。

（村田 記）

初の女性社員が誕生

桐生倶楽部９０年の歴史の中で初の女性社員が誕生した。深津素子さん、樋口一枝さん、武井弘美さん。３月例会に参加した樋口さんは、新入社員紹介を受けて、歴史の重みを感じつつも「ロータリークラブに入ったときのほうが、ずっと緊張したかもしれません」と、なごやかな表情であいさつした。ようこそ倶楽部へ。

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

90周年実行委が始動

桐生倶楽部創立90周年実行委員会（矢野昭委員長）が３月３日始動した。

歴史編纂委員会が100周年史作成のための準備、記念式典委員会が10月11日の式典の企画と設営、記念事業委員会がカーテンの新調や社員名簿の作成など、それぞれ取り組んでいく。

21日には歴史編纂委員会が行われ、五十年史発刊に携わり、後の倶楽部運営においても中心的存在となってきた元副理事長の小池久雄さんを招いて、百年史のポイント、資料の整理など、委員たちが参考意見をうかがった。

同委員会では今後、館内の資料整理にあたっていくが、社員の手元にも桐生倶楽部の古い写真や資料などがあると思われ、協力を呼びかけていく方針を確認した。また、一般に向けても働きかけていく考えだ。

桐生倶楽部はぐるま句会

一月

合掌の屋敷稲荷に初明り　遠藤

箱根路や熱き思ひを去年今年　有阪

つくばひの楓一葉初氷　大槻

切山椒買つて仲見世抜けにけり　小池

日脚伸ぶ見知らぬ鳥の集まりて　塚越

日脚伸ぶ番の土鳩来ておりぬ　久保田

二月

花梨の実もらい手のなく年を越す　小池

句碑のみち木の間隠れの雪間かな　遠藤

岩清水融け初めたる雪間かな　有阪

とび出した箱入娘うかれ猫　大槻

紅梅をくぐり餌台に目白かな　塚越

川越えるほどは迫らず大焼野　久保田

＝ 倶楽部だより ＝

【２月】
- 歩く会例会「前仙人岳」雪のため中止　(10日)
- 理事会　(12日)
- 歩く会世話人会　(12日)
- はぐるま句会　(26日)
- 月次会「レーザー光とホログラフィ」(29日)

【３月】
- 創立90周年実行委員会　(３日)
- 歩く会例会「大坊山」ハイキング　(９日)
- 理事会　(10日)
- 歩く会世話人会　(11日)
- 月次会「桐生市の20年度予算と機構改革」(12日)
- 美術部鑑賞会　東京　(14日)
- 90周年実行委　歴史編纂委員会　(21日)
- はぐるま句会　(27日)

【退社社員】

小林記一郎（逝去）
金子　博　　岩田　俊光

社団法人　桐生倶楽部会報　第164号
２００８年（平成20年）　4月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い（芳名録から）

昭和23年5月来館

平山蘆江（1882～1953）

作家

風土感を生かした作家の情緒

昭和二十三年五月中七
白流さまのうるを
つくりに来て新緑の桐生にて
平山芦江

歌舞伎の忠臣蔵五段目で、これは昔、猪役の勘違いが巻き起こしたというドタバタ劇である。

猪のこしらえをした下回りが、そろそろころあいかと揚幕に回ってみると、まだ半官切腹になりかけたばかりだったので、ぬいぐるみのまま火鉢のそばで横になり、つい、うとうととした。

そこへ由良之助の出になり、諸士の出になるというところで、どうしたものか、諸士が出てこない。頭取が楽屋に向かって「諸士諸士」と怒鳴ると、その声を聞いた猪が、自分のことだと思って飛び起きて、舞台へ走り出し、由良之助を押し倒し、判官を蹴飛ばして、ふと気がつくと様子が変なのでびっくりして上手へ逃げ込んだと、これは演芸担当の新聞記者で、作家としても知られた平山蘆江の「おわらひ草」からの拾い読みである。

1948年5月、蘆江は緑の濃くなった山々と白滝姫の姿を追ってこのまちに来たことが、芳名録に記されている。

都都逸を大衆歌として定着させようと試み、神田に学校をつくった。作家の尾崎秀樹は「蘆江は長崎人として育ち、その風土感を生かした、情緒たっぷりな作家だった」と評した。

代表作「唐人船」は蘆江の自叙伝である。

華やかに春の文化祭

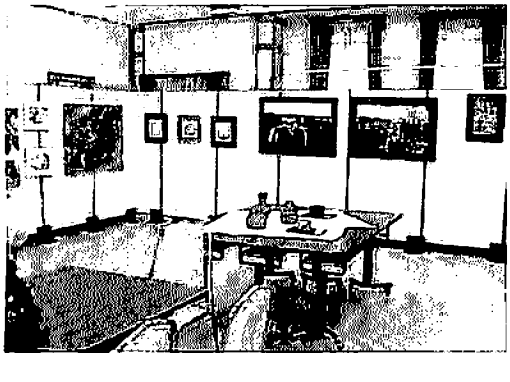
パーティーも盛大

桐生倶楽部恒例の文化祭が、ことしも5月9日から11日まで開かれ、社員やその家族による写真や絵や句、焼き物などの力作が出品され、大勢の来館者を楽しませた。

また、最終日のガーデンパーティーには82人が参加してにぎわい、文化祭行事である春季囲碁大会、麻雀大会の表彰も行われた。

【囲碁大会】優勝・岸田信克、準優勝・田中義弘、3位・金子　進

【麻雀大会】優勝・糞田　隆、準優勝・河原井弘、3位・米田鑄穂



貴重な絵はがき見つかる

１９２１年発行の「社団法人桐生倶楽部絵はがき」がこのほど市民から寄贈されました。祖父の資料の中にしまわれていたそうで、残っているのは２枚ですが、元が何枚組みの絵はがきだったのかは、現段階でははっきりしません。

この年は桐生市が誕生し、たくさんの記念行事が行われました。発足間もない桐生倶楽部の気概が伝わってくるような出来栄えです。写真は１枚が広間と特別室、もう１枚が前景です。

歴史編纂委員会では古い資料を求めています。ご協力をお願いいたします。

歴史編纂委員会

残雪と水芭蕉と鹿俣山

歩く会5月例会

「鹿俣山」は、私もはじめてである。

私が下見に行った5月3日は、まだ玉原スキー場は春スキーを楽しむ人達で賑わっていた。「スキーも、もう何年していないだろうなぁ……」と思いながら、玉原湿原に歩を進め「鹿俣山」へのコースを取るのだが、次第に残雪も深くなり、しかも雪の重みで傾いた樹々の枝が道を塞ぎ、踏跡もなく、実は諦めてしまった。

それから二週間後……。5月18日午前6時、「雪は融けているだろうか…？」と思いながら、桐生倶楽部に行くと、私の不安も吹き飛ぶような、元気な、山好きの面々8名が既に集まっていた。

定刻6時に桐生倶楽部を出発。本日の往路は、根利経由である。この道は素晴しく良くなった。私が学生時代は、道幅も狭く、ダートで、カーブが続き、ラリーの練習にはもってこいだったのに、こうも良くなってしまうと却って味気ない。これも道路特定財源のおかげ……？とすると暫定税率も我慢のしどころかしら……？走ること1時間で、沼田ＩＣ前の信号に出た。玉原高原センターハウス前の駐車場には、7時30分着。

玉原スキー場の営業は、もう終わっていた。7時40分、皆さんは早々と歩き出す。先づは玉原湿原に向う。二週間前とは格段に大きくなった水芭蕉が私たちの歩みを止めさせる。およそ15分で湿原を抜け、「ブナ平」に向う緩かな道に入る。

周りは本当にブナだらけ。樹々の緑もまだ淡く、柔かそうな色合いで、生命の息吹きを感じさせてくれる。私の一番好きな季節だ。「ブナ平」を過ぎると、スキー場のゲレンデの上部に出た。ゲレンデの一部には、まだ雪が残っている。下見の時には、ここまで来れなかった。二週間でこんなに季節は動くのか…と驚かされる。ゲレンデを横切ったり、脇道を通ったりするのだが、後藤さんは「フキノトウ」を採ったり、写真を撮ったりと、どうも山頂まで行かないらしい。ゲレンデを背にして遠ざかった頃、あっけなく頂上に着いてしまった。

時刻は9時30分。およそ2時間の歩程であった。しかし残念なことに山頂はガスが濃く、何の展望も得られない。小休止後、早々と下山を開始する。帰りはゲレンデを真っ直ぐ一気に下り始める。「ザクッザクッ」と残雪を踏みしめ、皆でゲレンデいっぱいに横に広がりながら下りてくるのは気持ちいい。海野さんや吉田さんの奥さんは、ゲレンデから離れ、「フキノトウ」採りに忙しい。こう云うのも面白い。自然の中で戯れ、自然の恵みに授かる。いいなぁ…こう云うのって……！皆さん快調で正午前に駐車場に戻ることができた。

予定では帰路の途中♨で汗を流す訳であったが、村田さんの発案で、急キョ旧・白沢村の「いけだ」と云う蕎麦屋に寄ることになった。私はグルメでないから何とも評することが出来ないが、「もう一度食べに来てもいいな…」と思う味であった。でも、ちょっと高いかな……。一同蕎麦を堪能して、後は一路桐生に戻るだけ……。予定よりも早く、15時30分、桐生倶楽部に到着。おだやかな天候の中での、おだやかな山行であった。さあ、後はお家で汗を流そう……とっ。　（狩野　記）

歩く会4月例会　嵩山・白井宿

（4月13日）

桐生倶楽部はぐるま句会

三　月

水草生ふ堀を巡らす館かな　遠藤

春の野をゆつたり刻み万歩計　大槻

花の種蒔きたるあたり土動く　有阪

枯枝に遊びほうける寒雀　小池

春の野に子等戯れて水ぬるむ　塚越

雨あとの生気もえ立つ春野かな　久保田

四　月

寄せ書のその人遠し春灯　遠藤

春灯に影絵となりて日本髪　大槻

花菖相合傘を上げ降ろし　塚越

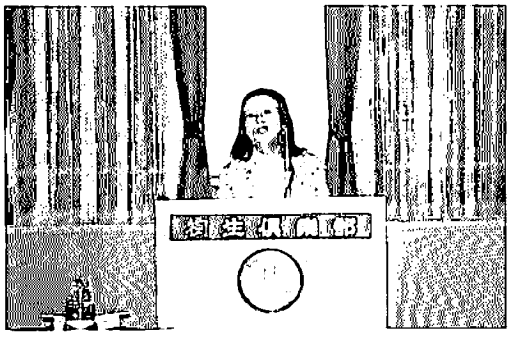
真青なる空に白蝶飛び立ちぬ　有阪

友バリー白木蓮の香のゆたか　小池

紋白の草に沈みし雨もよい　久保田

新入社員紹介（敬称略）

[redacted]



月次会報告（4月）

石村さん、ハルさんを語る

四月の月次会は、「二つの祖国で」という本を著した館林市の石村澄江さんが、疎開先の黒保根村で苦労を重ねて終戦を迎え、国際社会への貢献という夢に向かって歩み出した松方ハルさんの姿を、さまざまなエピソードを交え語った。

黒保根の旧家、星野家に生まれ、日米の生糸貿易の橋渡しとなった新井領一郎の孫であり、内閣総理大臣を務めた松方正義の孫でもあるハルさんは、アメリカに生まれ、日本で育った。講演の中心は、二つの祖国の戦争という状況の中で、いつか自分の力が世の中の役に立つと信じ、黙々と野良仕事に精を出した黒保根での日々。戦後、日本で米誌記者として活躍し、後の駐日大使ライシャワー博士との出会いなどを語った。

（4月22日、2階大広間、参加者23人）

＝ 倶楽部だより ＝

【４月】
- 写真部会　（5日）
- 歩く会例会　（13日）
- 理事会　（14日）
- 歩く会世話人会　（15日）
- 月次会「ハル・ライシャワーIN桐生」（22日）
- 麻雀大会　（28日）
- はぐるま句会　（30日）

【５月】
- 文化祭　（9～11日）
- 囲碁大会　（10日）
- ガーデンパーティー　（11日）
- 理事会　（12日）
- 歩く会例会「玉原・鹿俣山」　（18日）
- 歩く会世話人会　（20日）
- はぐるま句会　（30日）

【退社社員】

尾島　金吾・岡田　成雄

社団法人　桐生倶楽部会報　第165号
２００８年（平成20年）　6月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い
芳名録から

昭和10年10月27日来館

今松治郎（いまつじろう）

（1898～1967）

政治家

今松治郎は愛媛県出身で、１９５２年の第25回衆議院議員総選挙で当選し、57年の第１次岸内閣改造内閣で初代総理府総務長官に就任した自由民主党の政治家である。

東京帝国大学を卒業して内務省に入り、警察畑を歩んできた。中曽根康弘元首相や後藤田正晴元法相は後輩にあたるという。

岸派を貫く

和歌山県知事、静岡県知事などを務め、戦後の公職追放が解除されて後、立候補した。

岸信介に私淑して、岸派を貫いた。元首相の森喜朗は今松の秘書を務めた。資料によれば、森が地元の石川県から衆院選に立候補した際に、自民党からの公認を得られていなかったにもかかわらず、岸に応援を要請し、岸は、森が今松の元秘書だと聞いて、石川まで足を運んだという。

森はこの選挙で初当選を果たした。なお、芳名録にある同行者の特定はできていない。

倶楽部90周年、市民に語る

阿部理事長が生出演

月次会報告（6月）

FM桐生を見学

6月の月次会は、FM桐生のスタジオ見学が行われ、阿部高久理事長が番組に生出演した。

発足し、この7月で1年になったコミュニティーFM。市民から市民への発信は、暮らしの中で受け入れが進んでいるとはいえ、まだまだ開拓の余地が残されているのが実情だ。その役割への理解を深めて、新しいメディアをみんなで育てていこうと、会館を離れ、企画された見学会だ。

ガスプラザに集合した一行は、塚越紀隆社長から1周年のあゆみ、そして、双方向の交流がどのように展開されているか、現状説明を受けた。

この中で塚越社長は、若者層の聴取の広がりが手ごたえとして返ってきていることや、災害緊急時の役割などについて語り、食事後スタジオへ。

生出演に臨んだ阿部理事長は、はじめは緊張の面持ちだったものの、番組が始まると、パーソナリティーとの息もぴったりに、90周年を迎える桐生倶楽部について、その歴史的な役割、これからめざす思いを流れるように語り、放送をつぶさに見つめる社員たちに、ときおり笑顔を見せる余裕ぶりだった。

（6月17日、桐生ガスプラザ、参加者13人）

花の高原・記念トレッキング

月次会報告（7月）

志賀・四十八池へ

7月の例会は倶楽部創立90年を記念して、歩く会が担当し、志賀高原四十八池をトレッキングしました。

7月27日㈪朝5：30霧雨の中を倶楽部出発、参加者39名。志賀草津道路を経て9：00志賀高原硯川到着、横手山辺りからは快晴に恵まれて一安心。ニッコウキスゲが満開の急斜面を、前山リフトで一気に標高1800米まで登ります。

記念撮影と軽いストレッチの後、トレッキングスタート。渋池を右手に見てダケカンバ・コメツガ・オオシラビソの樹林を20分程進むと分岐点に到着。ここで二手に別れて健脚組は左の志賀山（2036米）ルートへ、トレッキング組は右手の四十八池湿原へ直行。トレッキング組は10：00には四十八池（標高1895米）に到着。爽やかな高原の風の中、ワタスゲ・ヒオウギアヤメ・アキノキリンソウなどが咲き乱れる湿原をたっぷり堪能した後、「硯川ホテル」の昼食場所へ。

健脚組の内数名の帰着が予定時刻を大幅に遅れた為、12：40取り敢えず昼食会を開始しました。

全員無事に下山そろった処で阿部理事長のあいさつ。倶楽部創立90年の意義等にも触れられ、和やかな雰囲気の中での昼食会となりました。食後温泉で汗を流し、出発の15：00に合せたように夕立が始まり、終始雷雨の中を桐生への帰途となりました。幸い渋滞にもあわず、19：00全員無事に倶楽部帰着。楽しい夏休みの1日でした。

（村田 記）

絶景に歓声

歩く会、6月は尾瀬沼

「歩く会」6月例会は、昨年悪天候のためキャンセルした尾瀬沼への再チャレンジでした。

6月1日(日)、前日までの雨がうそのような快晴となり、参加者17名は、朝5時自家用車分乗で桐生倶楽部を出発、利根・薗原湖経由で7時に大清水に到着。

ここからは、1時間の林道歩き。昨夜の雨に洗われて、一段とあざやかな新緑、抜けるような青空、賑やかな小鳥達のハーモニーを楽しみながら一ノ瀬へ。一ノ瀬休憩所では売店で冷えたトマトを買う人、おみやげ用のワラビを注文する人、身支度をする人、皆忙しい。

小休止ののち三平峠を目指し山登り開始。ピークの三平峠までは、標高差330m、道は良く整備されており、日頃吾妻山で鍛えた面々なので、なんなく峠越えと思いきや、峠附近には残雪がたっぷり、思わぬ苦戦の場面も。

しかし、オオシラビソの林を抜けて、三平下まで来ると、視界は一気に開け、画面いっぱいに尾瀬沼と燧ヶ岳が。思わず歓声が上がる。

三平下から長蔵小屋への木道を行くと、水芭蕉の出迎えだ。今年の水芭蕉は霜害でいまいちの感もあるが、尾瀬沼と燧ヶ岳をバックに、絶景スポットの演出をしてくれる。

長蔵小屋休憩所でにぎやかな昼食をとり、大江湿原方面への散策に、写真撮影に、1時間程の自由時間を楽しみ、長蔵小屋前で記念撮影後12時に下山開始。

難所の三平峠も助け合いの精神で無事通過し、一ノ瀬へ下山。予定どおり3時に全員元気に大清水帰着。

燧ヶ岳と尾瀬沼の雄大な景観、可憐な水芭蕉、三平峠の残雪等が思い出に残る山行でした。

（岩崎 記）

桐生倶楽部はぐるま句会

五月

爪の先染めつつ蕗の皮を剥ぐ　遠藤

出す度に若返り居り武者人形　大槻

竿売りの路地を流すや夏めきぬ　有阪

桐の花咲いて存在新たなり　塚越

水増えて釣人一人初夏の川　久保田

六月

夏木立陽明門の見え隠れ　遠藤

山寺の鐘こだまする夏木立　塚越

せせらぎの瀬音聴き入る夏木陰　有阪

地蔵堂隠してしまひ夏木立　大槻

巡礼の声なく去りぬ夏木立　久保田

＝ 倶楽部だより ＝

【6月】
- 歩く会例会「尾瀬沼」（1日）
- 理事会（9日）
- 月次会「FM桐生スタジオ見学」（17日）
- 歩く会世話人会（17日）
- はぐるま句会（30日）

【7月】
- 理事会（14日）
- 懇話会「炭素繊維が環境を救う」（25日）
- 歩く会例会・90周年記念トレッキング「志賀四十八池」（27日）
- はぐるま句会（29日）

【退社社員】

下山嘉一郎・藤江聰吉

社団法人　桐生倶楽部会報　第166号
2008年（平成20年）　8月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い（芳名録から）

若者たちの躍動のあかし

昭和23年8月9日来館

中山伊知郎（1898～1980）

経済学者

昭和二十三年八月九日　中山伊知郎

美濃口時次郎

戦後間もなく、桐生では青年の手によっていくつかの文化団体ができ、活動を始めたが、桐生倶楽部でも、新しい時代をどう歩むべきかと、会館を利用する若者たちの間で、熱い論議が交わされるようになってきた。1946年ごろである。

こうした会合の場に、斎藤長平理事長が理解を示し、開放したことがその縁の始まりだが、戦争の影響によって倶楽部社員の平均年齢も高く、青壮年社員がほとんどいなかったため、これを機会に「倶楽部の将来のために青年部をつくったらどうか」という意見が出て、47年、具体化した。

活動の中心メンバーだったのが前副理事長の小池久雄さんで、構成員は男女ほぼ半々、半分は学生という若い集団で、東京から疎開し、桐生に根をおろした作家の南川潤さんの全面的な応援を得て、青年部はそれから約1年、親睦、知識の向上を目的に、さまざまな事業を展開した。

事業のなかに「経済夏季大学」という催しがあり、織物会館を会場にして8月の5日間、連日の超満員という盛況を呈したが、このときの講師が経済学者で一橋大学教授の中山伊知郎だった。桐生倶楽部への来館は、そのときのものだ。

中山は、三重県出身で、1926年に東京商科大学（現一橋大学）を卒業。ボン大学留学を経て、39年に経済博士となり、近代経済学の導入に貢献した。1963年学士院会員。1968年文化功労者。

同行の美濃口時次郎は労働問題の専門家。

鵜飼教授が四川大地震報告

月次会報告（9月）

激甚地から学ぶ災害への「備え」

9月の月次会は25日、「大規模斜面崩壊がもたらしたもの」と題して群馬大学大学院工学研究科の鵜飼恵三教授が四川大地震災害を報告した。

5月12日、直下型としては最大級の揺れに見舞われた四川盆地。多くの死傷者、行方不明者を出し、被災者は4千万人以上といわれている。

現地を視察した鵜飼教授は、巨大なエネルギーがもたらした地形の崩壊や変形、岩屑なだれ、土石流、建物の倒壊など、激甚地の様子をスライドを交えて解説した。一瞬の出来事で、谷あい深くに埋まってしまった人々の生活。一つの集落がそっくり消えてしまったあとに、荒涼とした風景が広がっている。つぶれた校舎、大きな岩の下敷きになった車。すでに数万人の住民は他へ移り住んで死の町と化した一帯など、写真の一枚一枚が自然の力のすさまじさを物語って余りあった。

こうした災害は、地震発生時のもの、そして地盤が緩んだ後の大雨による地すべりなど、幾重にも重なった結果、もたらされたものだ。顔を出した断層、山中には34個もの堰止湖が生み出された。予断を許さない状況は続いているという。

日本においても大地震が頻発し、人々の関心も高まりつつある昨今だ。鵜飼教授は、群馬県や私たちのふるさとの地形、地質に話題を変えて、「群馬県で直下型地震が起きる可能性は少ないと思います。でも、決して油断はできません。備えは必要です」と、災害への心構えを強調した。

（2階大広間、22人）

深田久弥終焉の地「茅ヶ岳」をゆく

歩く会９月例会

登山家で作家の深田久弥は名著「日本百名山」の中で、百名山選定基準の一つに「深田自身が実際に登った山」の中から選んだと書いている。従って、「茅ヶ岳」は深田久弥が登山中に急逝した山であるから当然「日本百名山」には選ばれなかった。

後に、「茅ヶ岳」は深田クラブにより、「日本二百名山」の一つに選ばれている。さて、「もし」深田久弥が登山中の不慮の死を迎えなかったならば、深田久弥は「茅ヶ岳」を「百名山」に選んでいただろうか…？興味深いところである。

…と、まあ知ったか振りはこの辺にして、桐生倶楽部歩く会の９月山行は、この深田久弥終焉の地「茅ヶ岳」に行ってまいりました。

９月14日(日)午前５時、桐生倶楽部に集合、出発。本日の参加者は11名と、少々淋しい。やはり、連休の中日と云う設定も影響したのでしょうかねぇ…？

バスは北関道～関越道～圏央道～中央道とひた走り、順調に午前８時20分登山口の「深田記念公園」駐車場に着いた。早速、身仕度を整え、まずは「深田記念公園」で元気なうちの姿を一枚カシャ…！

にじゅうのうちは、緩い上り道を皆さん全くのマイペースで快適に歩く。歩くこと、およそ50分…冷たい湧水の滴れている「女岩」に到着し、しばし休憩。さあいよいよ、ここから尾根に上るまでの急登が続く。

私は、今日は何故か快調で、途中20名くらいの団体や単独行のオジサンを追い越し、休まずひたすら上り続ける。頭から汗が吹き出てくるのが分り、額に巻いたタオルからポタポタと汗が垂れる。異常な蒸し暑さだ。着ているTシャツもビッショリで重い。ようやく尾根に出てザックを下ろし、一服していると森口さんと木村さんが上ってきた。このお二人の健脚にはいつも驚かされる。山頂手前の登山道脇に「深田久弥終焉の地」と云う小さな碑があり、森口さんと木村さんはお賽銭を供した。私…？私は生憎小銭がなかったので失礼させてもらいました。11時20分「茅ヶ岳」山頂に到着。山頂からは360度の大パノラマが楽しめる筈であったが、ガスっていて本日は展望が得られない。ウ～ム、残念…　森口さんと木村さんと私は腰をお下ろし、まず乾杯…　展望が得られようが得られまいが、私には山頂でのこのセレモニーは絶対欠かせない。そのうち、倶楽部の面々も続々と登頂。やはり頂上に立った時の皆さんの表情は清々しい。

長めの昼食タイムの後、下山路は千本桜方面の道を取ることにした。この道は歩き易いがダラダラと下り坂が続くため山口先生にはこたえたようである。それでも予定の時刻までに登山口に戻ったのはご立派。

登山の後の楽しみは　である。今日は「日本三大夜景の湯」と云うキャッチフレーズの「ほったらかしの湯」とやらを予定していたのだが、これが正直「ガッカリの湯」であった。施設は映画セットのような安普請のうえ、多勢の入浴客でごった返し、何だか落ち着かない。しかも、いざ帰ろうとバスに乗ったら、国道に出るまでの僅かな距離なのに、信号待ちで１時間以上かかってしまった。あれは絶対信号システムのセットが悪い。あの周辺は、観光施設やぶどう園もあって、多勢の観光客が、あの信号で迷惑しているだろうから、山梨県警日下部警察署には、きっと苦情が殺到しているのじゃないだろうか…？

結局、あのシステム設定の悪い信号のおかげで予定より30分遅れになってしまったが、午後８時30分、全員無事に桐生到着となりました。さあ、来月は日本三百名山の「国師ヶ岳」と奥秩父最高峰の「北奥千丈ヶ岳」だぁ…！　来月も参加するぞぉ…！　あっ、また山梨県だぁ…

（狩野　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

ものみな影なくしをり日の盛り　大槻

日盛りに子等のはしやぐ水辺かな　塚越

病葉の桜に多し城跡かな　遠藤

病葉は別れ惜しみつ落ちにけり　有阪

病葉を掃きて山寺始まりぬ　久保田

八月

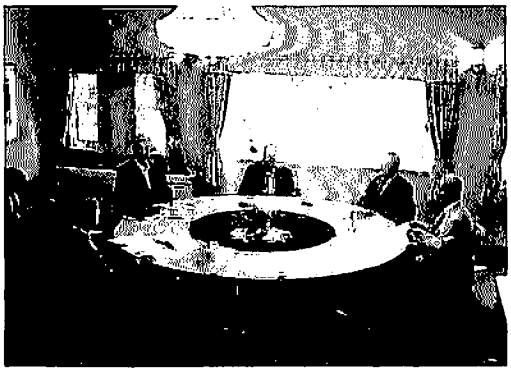
遠目にも白さ際立つ芙蓉かな　大槻

くさぐさの中に一きわ芙蓉かな　塚越

秋風に兵隊蟻は老ひにけり　有阪

久しくの便りの絶へし芙蓉かな　遠藤

新涼の風に目覚めの早きかな　久保田



時代の役割を語り合う

90周年歴史編纂 第1回の座談会

桐生倶楽部創立90周年の歴史編纂委員会が主催する第1回座談会が、9月20日午後、別館で開かれた。「桐生倶楽部の時代の役割」をテーマに約1時間半、塚越平人前理事長、小池久雄前副理事長、五十嵐健雄前副理事長、阿部高久理事長が和気あいあいの雰囲気の中で語り合い、森寿作歴史編纂委員長が司会を務めた。

座談会後、阿部理事長に案内されて、カーテンが新調されたばかりの2階大広間へ。90周年の着実なあゆみを、実感していた。

広間のカーテン新調

＝ 倶楽部だより ＝

【8月】
- 理事会「終了後清風園にて納涼会」(11日)
- 歩く会世話人会 (19日)
- 法人検査会 (26日)
- はぐるま句会 (29日)

【9月】
- 90周年式典委員会 (10日)
- 理事会 (11日)
- 歩く会9月例会「茅ヶ岳登山」(14日)
- 歩く会世話人会 (16日)
- 懇話会「近江商人と桐生」(18日)
- 歴史編纂委員会 (20日)
- 月次会「四川大地震災害報告」(25日)
- はぐるま句会 (30日)

【退社社員】

上野武男

社団法人　桐生倶楽部会報　第167号
2008年（平成20年）　10月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成20年 12 月10日　　2008.　　第 168 号 (1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

市民の手でつなぐ100年

90周年を記念し、阿部理事長から塚越平人前理事長へ功労賞表彰と記念品が贈呈された。社員の寄せ書きも表具され、披露された。

時代のかたち模索しつつ

阿部理事長、90周年で抱負

桐生倶楽部の創立90周年記念式典が10月11日に開かれ、ともに星霜を重ねてきた会館には大勢の来賓が訪れ、盛大な催しとなりました。

遠来の人をもてなす客間として、また地元の人々の社交の場として、明治生まれの先人たちが力を結集し、会館をつくりあげ、大正、昭和、平成と、連綿と運営してきた組織です。登録文化財に指定されたしょうしゃな会館。その内側には桐生の近代を象徴する精神が、なお息づいています。

歴史的な価値の高い会館を今後どのように維持していくか、さらに、昨年から女性に門戸を開いたように時代にふさわしい形をどう模索していくかなど、これからもしっかりとこたえていかねばならない期待、そして、重い課題があります。

これをふまえ、阿部高久理事長は「市民の手で作られ、市民の手で守られてきたこの倶楽部をこれからも市民の手に委ねていくことが大切な役割です」と100年に向けて抱負を語りました。

桐生倶楽部のさらなる発展を誓い、全員で乾杯。

創立90周年を祝う

（2008年10月11日）

アトラクションは、奥平哲也さんがマリンバの演奏を披露した。

錦秋の秩父山域、最高点に立つ 10月例会

10月例会は、秩父の国師ヶ岳、北奥千丈岳の山行である。馴染みのない山名かも知れませんが、国師ヶ岳は、日本300名山、北奥千丈岳は秩父山塊の最高峰（2,601m）であります。

10月12日(日)、集合時間前に勢揃いし予定を5分繰り上げて4時55分、桐生倶楽部を出発。本日の参加者は10名。ややさびしい気もするが、連休の谷間でもあり、行事の詰まっている秋でもあり、納得。3台のマイカーに分乗し、熊谷－秩父－三富－大弛峠へと……。

順調に車が走ったので予定より早く着くかと思ったが、あにはからんや、予定の駐車場の1k余手前での路上駐車と相成った。何やら聞くところによると、最近のTV放映と紅葉とが相俟ってこの結果になったらしい。

登山口までの林道歩きは、どこかの緑日に来たと間違うばかりの人ごみであった。

2,370mの登山口に9時35分、全員の到着を待って出発。樹林帯の中の道は、木の階段で見た目には良いが、実は歩きにくく、登山者泣かせである。

ゆっくり歩くこと15分程、急に視界が開けた所が「夢の庭園」である。木々の色は黄や赤に色鮮やかに変化し、目の前の朝日岳越しに五条岩が一際目立つ金峰山、目を転ずれば、甲斐駒ヶ岳・北岳の南アルプス、赤岳を盟主とする八ヶ岳、遠方に北アルプスと山座同定に時を過ごし、ゆっくりペースでさらに進む。前国師ヶ岳に到着。見るとそこには、雲の上から端正な姿の富士山が目の中に飛びこんできた。

同行のメンバーから喚声があがった。やっぱり富士山は日本一の山なのだとつくづく思う。

5分程歩くと道は2手に分かれ、まずは、左に折れて国師ヶ岳（2,592m）に到着。ここでの展望はまさに遮るものがなく360度大パノラマ、遠くは遂ヶ岳や日光連山までも見られた。天高く快晴の秋空のもと、心ゆくまで山岳風景を楽しんだ。

来た道を戻り、分岐を左に折れて5分少々で北奥千丈岳11時到着予定の時刻である。ここでの眺望は今ひとつ。みんなで昼食をとる。食事に時を費やし、気がついて見ると谷から湧き上るガスで、先程まで見えていた山々は、ガスの中に吸い込まれていた。

11時40分、北奥千丈岳山頂出発。登山口に12時過ぎに到着し、駐車地点まで、林道歩きをして予定通り12時40分に3台に分乗。金峰泉に向かう。

山歩きの後の温泉入浴は楽しみである。ゆっくり温泉に浸かり、一汗流して家路についた。帰りの道は、3連休と秋の行楽シーズンとが重なり、どこの道も混んで、予定を大幅に遅れての帰桐になった。（岸田 記）

大展望の浅間隠山

11月例会

11月9日15名の参加で小型バスにて6：30桐生倶楽部を出発。倉渕村を過ぎた辺りから左右の山々が紅葉の真っ盛り。若干黄色味が多いが見事に赤、黄、緑と山一面に広がり、我々の目を楽しませてくれた。

9：00二度上峠下登山口に到着、全員揃って記念撮影の後登山開始。ここでの紅葉は遅かったので残念でしたが、登山道は良く整備されて楽に登れ、予定より早く山頂（1,757m）に到着。

頂上は高曇りで展望は素晴らしく360°遠く近くの山々が見渡せ、特に浅間山が目の前に迫る眺望は素晴らしいものでした。

我々以外にもバスで来たパーティもいて、山頂はなかなかの賑わいでした。昼食後、11：00過ぎに下山開始、予定より早く登山口に全員到着。帰路、はまゆう荘にて入浴し疲れを取り帰桐、お疲れさまでした。（栗原 記）

11月の月次会

わたらせFCを語る

山田代表が活動報告

11月の月次会は、わたらせフィルムコミッション（ＦＣ）の山田耕司代表を講師に招いた。

同ＦＣの活動はすでに多くの市民に知られているが、平成14年から現在まで、映画、テレビ撮影などに関し、ロケ地の選定やエキストラの手配など、支援実績は100本近くに達している。

山田代表は、風景を活用することで生まれる協働のあり方や、地域資産が生み出す地域経済価値のこと、また、桐生でやりたいという思いを具体的に掘り起こしていくため、官民を超えた視点と理念で取り組んでいることを語った。

（11月18日　2階大広間）

90周年で5事業

カーテンや寄せ書き

山口正夫記念事業委員長は、90周年式典の席上、五つの記念事業を発表した。

カーテンの新調、寄せ書き、会員名簿の作成、ホームページの充実、プロジェクターとスクリーンの整備。

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

目覚めても目覚めてもまだ夜長かな　大槻

再会の話の弾む夜長かな　遠藤

萩散りて池の緋鯉もやるやかに　塚越

隣家の子窓明明と夜長かな　有阪

鶏頭を一つ抑したり無縁墓　久保田

十月

金色に染まりし稲架の並ぶ夕　大槻

奥利根の一枚小さし稲架低し　遠藤

独り知る誰にも言はず茸山　有阪

かがみつつ一もと探るきのこ狩　塚越

山の香を背籠につめし茸狩　久保田

＝ 倶楽部だより ＝

【10月】
- ＪＣとの懇談会　（6日）
- 創立90周年記念式典　（11日）
- 歩く会例会「国師岳－北奥千丈岳」（12日）
- 理事会　（14日）
- 歩く会世話人会　（14日）
- はぐるま句会　（28日）

【11月】
- 歩く会例会「浅間隠山」　（9日）
- 理事会　（10日）
- 歩く会世話人会　（11日）
- 月次会「わたらせFCの活動について」（18日）
- はぐるま句会　（25日）
- 行事委員会　（26日）
- 文化活動委員会　（27日）

【退社社員】

関口　全之（逝去）

社団法人　桐生倶楽部会報　第168号
２００８年（平成20年）　12月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成21年２月10日　　2009.　　第 169 号（1）

桐生倶楽部会報

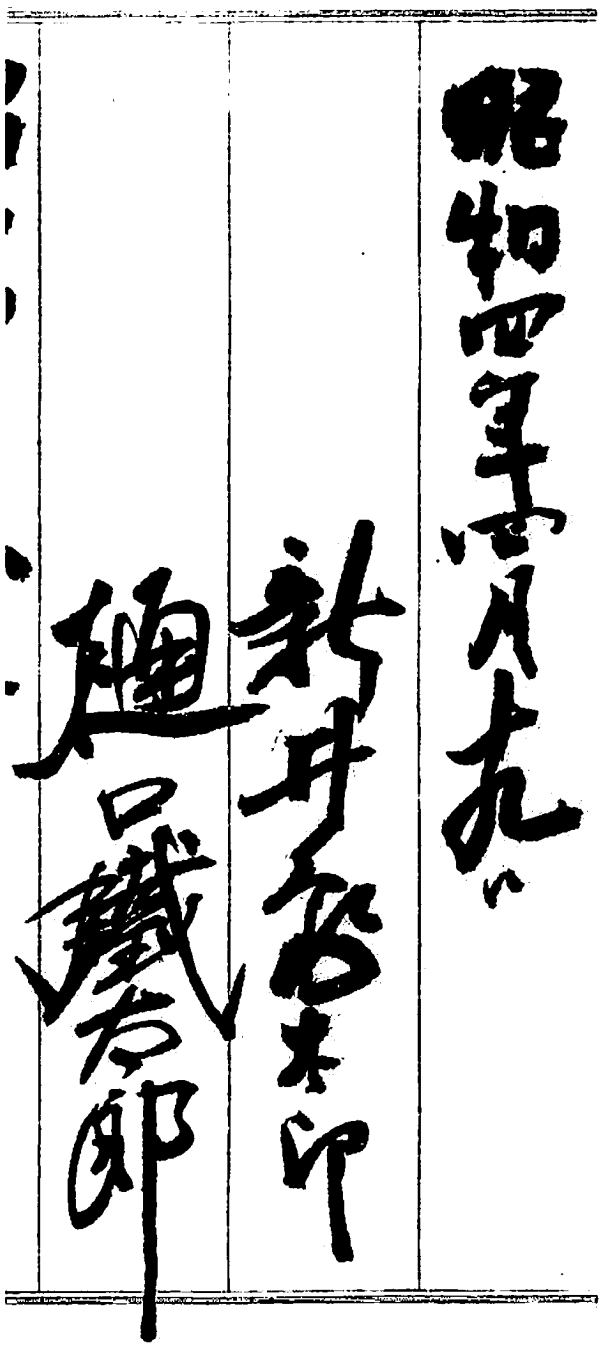
〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い（芳名録から）

1929年4月19日来館

新井亀太郎（1875-1932）陸軍中将

樋口鉄太郎



新井亀太郎は境野町出身の軍人である。陸軍大学校在学中に日露開戦で動員され、旅順で戦功をあげ、奉天にも従軍し、金鵄勲章を受けた。１９２７年に陸軍中将に任ぜられている。

理事長斎藤長平の招きで桐生倶楽部を訪れた昭和４年（１９２９）は、旭川第７師団長

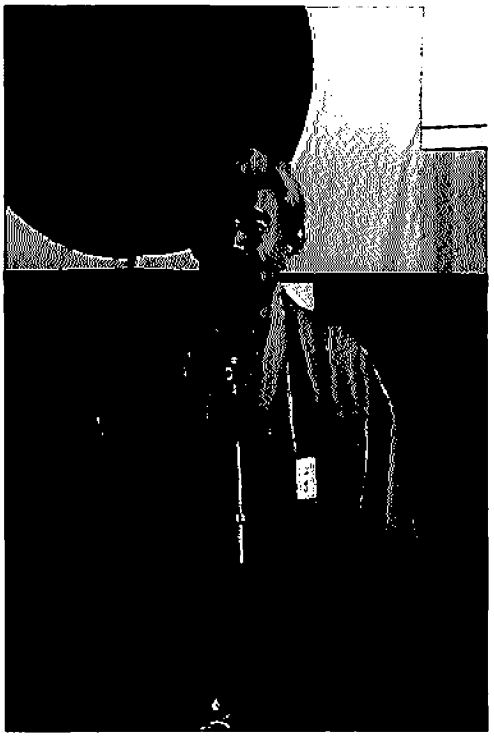
斎藤長平の招き

の職について間もないころだ。能書家であり、刀水の号を持つ。昭和７年、伊勢崎で講演中に急逝。当時の境野村の小学校長長島織吉は「人格修養の道標を失えるの観ある」と、深くなげいたという。

同行者は樋口鉄太郎。どのような人物か定かではないが、陸軍大学校の第18期卒業生の中に同名があり、陸大の経歴をみると「首席。最終階級は歩兵大佐。歩兵第60連隊長」とある。

会館維持は大事な役割

定款で明文化
阿部理事長が方針
新年互礼会



平成21年の桐生倶楽部新年互礼会が1月4日開かれた。阿部高久理事長は、困難な時代に遭遇する中で、先人たちがつないできた倶楽部の心意気と、文化遺産である会館を今後どのように受け継ぎ、未来に委ねていくか、その役割をしっかりと認識するべきときにきたと語り、会館の維持管理運用という懸案に関して、これを定款にうたい、目的として取り組んでいくことを年頭の方針に掲げた。

恒例の祝舞は宝生流桐生藤門会。このあと昨年の国家表彰受賞者をたたえ、旭日小綬章の蛭間利雄さん、経済産業大臣表彰の泉明嘉さんに記念品が贈呈された。

なお、維持管理を明文化した定款の変更は30日に開かれた定時社員総会で承認された。

クリスマス祭に歓声　深津さんが歌唱指導

社員が家族ぐるみで楽しめる恒例のクリスマス祭が12月5日、桐生倶楽部2階大広間で開かれた。52人の社員とその家族、あわせて73人が宴を心ゆくまで楽しんで、子どもたちにはたくさんのプレゼントが用意され、大喜びだった。

今回は社員の深津素子さんが歌唱指導。「もみの木」などをうたってクリスマス気分にひたったところに、阿部高久理事長が扮するサンタクロースが登場し、祭は最高潮へ。大人たちは談笑に花を咲かせ、子どもたちは抽選会でもらったプレゼントにわき、用意されたお菓子や料理をたくさん食べ、会場に終始明るい歓声をふりまいていた。

創立150周年の慶応三田キャンパスへ

歩く会12月例会

12月14日朝6：30倶楽部集合出発、参加者46名。最初の訪問地は今年大人気だったＮＨＫ大河ドラマ「篤姫」のクライマックスとなった「勝＆西郷会見の地」跡。雨天の為、車中から西郷隆盛揮毫の記念碑を眺めて往時を偲んだ。

慶応義塾三田キャンパスも小雨の中傘をさしての見学。明治８年竣工の三田演説館（重文）、レンガ造りの図書館（重文）、最新の法科大学院校舎、折口信夫所縁のたぶの木の森、イサムノグチデザインによる萬来舎ゲストルーム、かつては正門だった幻の門、朝倉文夫制作の平和来像、還らざる学友の碑（戦没塾員の慰霊碑）、福澤諭吉終焉の地など慶応義塾百五十年の歴史に触れた。

大倉集古館（ホテルオークラ内）ではジャワ更紗（日本＆インドネシア国交50年企画展）の端整なデザインに眼を見張る。汐留シオサイト・パナソニック（旧松下電器）ミュージアムでは、Ｗ・モリス他による芸術運動「アーツ＆クラフツ」を観る。奇しくも植民地時代の東南アジアと19世紀末の英米のデザインに触れ、我々織都桐生の市民にとっては興味深い展覧会であった。

汐留シオサイトは旧国鉄操車場を再開発した新しい商業ビル群の街。ここでフリータイム、思い思いの昼食＆ショッピング。旧新橋停車場＆鉄道歴史展示室は鉄道ファンならずとも興味深い博物館。午後３時頃には雨が上がったので、予定通り隣接する「浜離宮恩賜公園」を夕景の中散策。お茶屋でティータイムを楽しんだ人も多数。

帰路は道路事情も良く、午後７時に倶楽部帰着。歴史と美術に彩られた有意義な休日でした。

（村田 記）

新春の吾妻山へ22人

1月11日9：30吾妻公園駐車場に集合、賀詞交歓。参加者は最長老・後藤さんから最年少・長尾さんのお孫さん（４歳）までの22名。快晴で風も穏やかなハイキング日和の陽光の中、ゆっくり１時間をかけて頂上（標高481米）まで。富士山を遠望し休憩・記念撮影の後、女吾妻～村松沢を経て、12：00新年会会場の「そば一」へ到着。今年の安全な山行を誓って乾杯の後、大いに盛り上がって14：00散会しました。

（担当、岩崎・腰塚）

美術部が冬の観賞会

フェルメール展など

ぜひともみたい展覧会がまとまって見られるチャンスを待って、秋の鑑賞会を冬にして、美術部の呼びかけに集まった4名で11月28日(金)に東京都美術館と国立新美術館へ出かけました。

話題のフェルメールを良く見ようと、作品の近くに寄ってルーペを使って、当時の表出技術の工夫を、情報として知ったことに照らして、よくよく納得できるまで観察しました。

予定になかったヴェルフェルム・ハンマースホイ展を隣の西洋美術館に立ち寄り、鑑賞しました。

地味で静かな内面的な知性人の暮らしを当時の革新的な表現と思想で具体化した画家です。これは、近代以降の写真描写の典型で、特に写真の世界へ深い深い影響をもたらしたと感じます。

写真部の方々に同行をお誘いすべきだったと後悔するまででした。

ピカソ展は言うまでもなく素晴らしい企画の展示でした。

身近に良いものを見ることは美術愛好者にとってこの上ない幸せな喜びです。

美術観賞の楽しさを通して感性とその思索を養い、喜びを通じて親交を深め社交をはかりたいと呼びかけます。　(桐生倶楽部美術部　保倉一郎)

写真は西洋美術館前で

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

川岸のめつきり痩せて暮の秋　大槻
波高し小春日和の石廊崎　川村
石楠花の凛と一輪返り花　有阪
レンガ蔵夕日に映ゆる暮の秋　遠藤
冬空に年を忘れてクラス会　塚越
山路来て足湯に浸る小春かな　久保田

十二月

隅々にメモ細々と古暦　有阪
お互ひをさらけ出し合ひ枯木立　大槻
蒼天へ真直ぐ伸びし枯木かな　遠藤
枯木持てずるいぞお前長過ぎる　川村
古暦勝れたる絵のみ切り抜きぬ　塚越
発破音遠くにひびき枯木山　久保田

＝ 倶楽部だより ＝

【12月】
- 臨時社員総会　(5日)
- クリスマス祭　(5日)
- 理事会　(8日)
- 音楽部会　(10日)
- 写真部会　(12日)
- 歩く会例会「東京文化探訪」　(14日)
- 歩く会世話人会　(16日)
- はぐるま句会　(26日)
- 行事委員会　(26日)

【1月】
- 新年互礼会　(4日)
- 歩く会例会「吾妻山ハイキング」　(11日)
- 理事会　(13日)
- 歩く会世話人会　(13日)
- 監査会　(17日)
- はぐるま句会　(27日)
- 臨時理事会　(30日)
- 定時社員総会　(30日)

【退社社員】

須藤　正夫・塩島　勇治
下山　昭三

社団法人　桐生倶楽部会報　第169号
２００９年（平成21年）　2月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

定時社員総会報告

平成 21 年度定時社員総会は 1 月 30 日午後 6 時 00 分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は松島理事の司会で、全社員２５８名中　１４０名(委任状１０３名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認した後、阿部理事長が議長となり議事 に入った。

第１号議案　平成２０年度事業報告の件（矢野副理事長）

第２号議案　平成２０年度収支決算の件（竹内理事）
会計監査報告（押見監事）

第３号議案　役員改選の件
役員全員が任期満了となり、定款第 6 章第 16 条及び第 18 条により新たに役員を選任する必要があり、議長より役員候補者が提案され全員異議なく承認された。その後 新役員により正副理事長が互選された。再選された阿部理事長のあいさつがあった。

第４号議案　定款変更の件
定款第２章 目的　第２条に建物の維持管理が加えられた。　（下記〰部分）
定款　第２章　目的
第２条
1．本倶楽部は社員相互の知識を交換し親睦を敦ふし公益に関する事業を攻究し之が遂行を期するを以て目的とす
2．本倶楽部はその建物の歴史的・文化的価値を認め之を広く社会の公共の資産と考え維持管理運用を目的とす

第５号議案　平成２１年度事業計画(案)の件（矢野副理事長）

第６号議案　平成２１年度収支予算(案)の件（竹内理事）

新役員は下記のとおりです。

＜ 理 事 ＞

阿部 高久　矢野 昭　森 壽作　山口 正夫　竹内 康雄　松島 宏明
佐藤 富三　岸 芳正　北川 洋　坪井 良廣　江原 毅　根津 紀久雄
前原 勝　塚越 紀隆　藤江 篤　岸田 信克　**前原 勝良　宮地 由高**

（**太字** 新任）

＜ 監 事 ＞

酒井 豊　押見 新一郎

また理事互選により正副理事長は下記のとおり決まりました。

理 事 長　阿部 高久
副理事長　矢野 昭
〃　森 壽作
〃　山口 正夫

矢野副理事長の閉会のことばのあと午後７時３０分閉会となった。

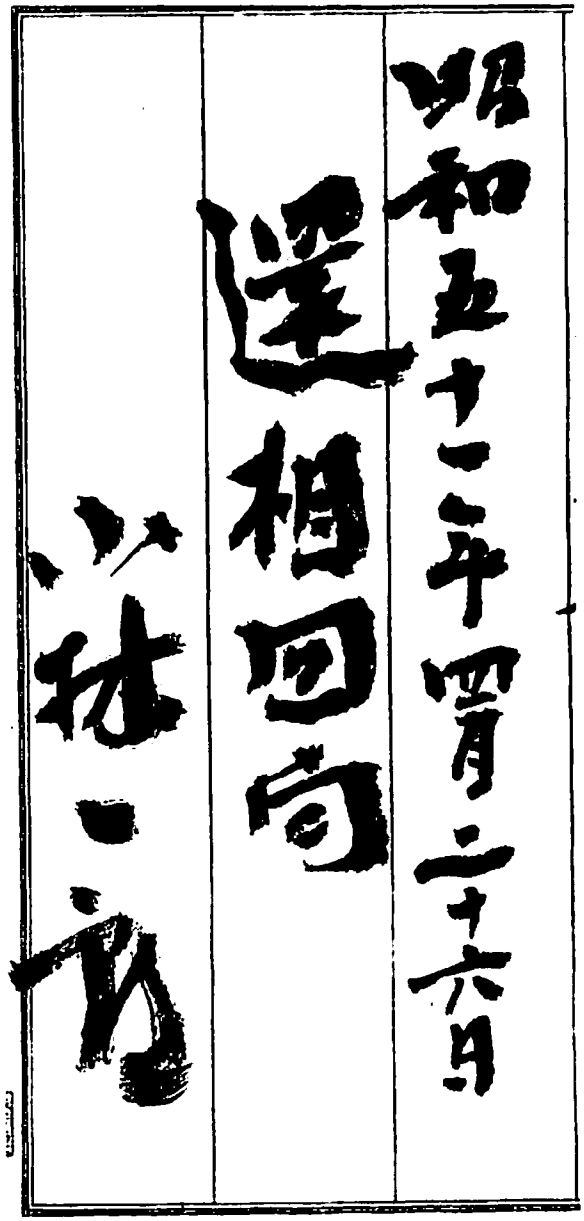
桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

折々の出会い
芳名録から

1976年4月26日来館

小林一郎（こばやしいちろう）
（1916年、桐生市生まれ）
文学博士



「還相回向」は浄土教の教義である。小林一郎さんは、文学博士で、館林市の田山花袋研究顧問をつとめた小林さんである。来館のころは8年がかりで刊行が進められた「田山花袋研究」全10巻の始まりのころで、「川端康成研究―東洋的な世界」「太宰文学の光と影」「夏目漱石の研究」「日本文学の心情と理念」などの著作がある。

「真剣勝負」と語った余技

小林さんは桐生市出身、父寛さんは教育者であり、画家であり、歌人であり、書家でもあった。

91年12月、桐生明治館で「邂逅」という展覧会が開かれた。めぐりあいという意味である。小林さんが「私のは余技。生命の燃焼する瞬間をぶつける書は、一発の真剣勝負で、いろいろな経験が凝縮して出てくるから、芸術の中でも一番怖い」と語った書と、寛さんの禅思想に裏打ちされた「わくら葉図鑑」が展示されていて、実に見ごたえのある作品展だった。

まちの駅から全国に発信を

西坂さんが講演

月次会報告（2月）

2月の月次会は「まちの駅について」と題し、桐生まちの駅連絡協議会の会長、西坂一夫さんを講師に招き、まちづくりへの取り組みを聞いた。

「まちの駅」とは、既存の公共施設や商店などを「無料で休憩できるまちの案内所」と位置づけて、来訪者にその土地ならではの情報を提供していきながら、地域の特色を全国に発信し、人や物の往来を促そうという試みだ。

西坂さんは先進地の事例を紹介しながら、たとえば桐生のものづくりが連携し、もてなしていける態勢を築いていくことで、桐生らしいまちづくりにはずみがつくのではないかと、現状の取り組みを説明しながら、抱負を語っていた。

（2月24日1号室参加者18人）

本間さんのインド仏跡訪問記

月次会報告（3月）

3月の月次会は、青蓮寺住職、本間光雄さんが訪れたインド仏跡の報告会。32人が参加した。

本間さんはことしの2月17日から12日間の日程で、同国の仏教の八大聖地を訪れたもの。

自然味にあふれたバスの旅、ネパール国境のお釈迦様の生誕地ルンビニの様子、青年期を過ごしたシャカ族のカピラ城、説法の場王舎城、禅定を修するために登り、悟りにつながったといわれる前正覚山、さらにブッダガヤ大塔、最後の説法の地、タージマハルなど、たくさんのスライドを中心に構成されたわかりやすい訪問記であり、この日は本間さんが緊急の事情で来館できず、坪井良廣さんが代役を務めた。

（3月23日2階大広間）

横浜名園の春と冬のはざまをゆく

3月の歩く会、三渓園と中華街へ

3月1日朝6：30倶楽部集合出発、参加者34名。天気予報では横浜地方は「曇り」とのことでしたが、9：00に三渓園へ到着すると小雨模様、傘を差しての散策となりました。三渓園は明治時代生糸貿易で財を成した原富太郎（三渓）が本牧三之谷一帯の広大な土地（5万3千坪）に造り上げた日本有数の庭園です。園内には三渓が京都や鎌倉から収集・移築した歴史的に価値の高い建築物（国重文10棟、横浜市指定文化財3棟）が巧みに配置されていて、四季の花々と共に来園する人々の眼を楽しませて呉れます。この日は「観梅」目的の訪問でしたが、残念ながら暖冬の所為で梅は盛りを過ぎていて、その代わりスイセン・サンシュユ・ネコヤナギなどを楽しみました。園中央に広がる池には二百羽を超える「キンクロハジロ（カモ科の渡り鳥で日本で越冬し、春シベリアへ渡る）」が越冬していて、こちらも眼に楽しい。三々五々園内のお茶屋で暖を取ったり、記念館では三渓の美術コレクションを鑑賞。特に季節柄、大作「中島清之・梅図（臨春閣の替え襖）」には大いに感激。中華街に移動して「同發」での昼食会、中華街散策・ショッピングを楽しんだ後は、みなとみらい地区の横浜美術館常設展を鑑賞して16：30出発、19：00に桐生倶楽部帰着。今年開港150年を迎える横浜の名所を楽しんだ日曜日でした。（村田記）

寒風吹く大霧山　2月

2月8日(日)。朝早くから、天気予報をものともせず桐生倶楽部に集った社員は12名。三台のクルマに分乗して7時00分に桐生倶楽部を出発しました。

桐生～太田～婁沼～熊谷～花園～と、私の好きなコースを私の好きなスピードで駆け抜け、秩父路に入ります。東秩父村の粥仁田峠から「大霧山」を目指すのが最短コースなのですが、それではちょっと物足らないので、本日は「定峰峠」から旧・定峰峠を経由して大霧山頂に至るコースとしました。

定峰峠の「茶屋」の前に9時00分到着。「峠の茶屋」の前の駐車場にクルマを置いて、早速身仕度を整え、まずは「疲れる前の証拠写真」を撮り、歩き出しました。いきなり植林帯の中の急登です。

でも、その距離も短く、あっけなく尾根道に出ました。あとは山頂を目指して、この稜線を歩くのですが、生憎、天気予報があたって、秩父市側からの風が強いこと……強いこと……！歩くことおよそ1時間で大霧山頂に到着しました。

山頂からの展望も、晴れていれば「素晴しい筈」なのですが、秩父市街地の方から吹き上ってくる冷たい風で、それも十分楽しめません。登頂記念写真もそこそこに下り始め、風の来ない僅かな場所を見つけ、昼食を摂ることとなりました。

12時30分、定峰峠着。皆さんも、冷え切った身体を一刻も早く温めたいようなので、秩父市内の「満願の湯」に向います。

以前、こちらの方の山登りの帰りに、やはり「満願の湯」に入ろうとしたのですが、途中で道に迷

（4ページへ続く）

桐生倶楽部はぐるま句会

一　月

水道栓頭巾被りて返ててをり　大槻
湯の町に風花舞ふや下駄の音　有阪
宿の朝福寿草よと妻の云ふ　川村
風花や手のひらに舞ひそつと消え　塚越
人々の心を捕らへ滝凍つる　遠藤
就職す凍てし古里始発駅　久保田

二　月

駈け出す子寝転ぶ子あり草萌ゆる　有阪
舟の着き旅人二人猫柳　遠藤
杣道を出でて山里春隣　川村
ゆったりと牛ゆく畔や草青む　大槻
春隣の窓辺豊かに風ぬくし　塚越
楊舟の舫ひし岸や猫柳　久保田

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

（寒風吹く大霧山＝３ページから続く）

い、行けなかったことがある。しかし、今は「カーナビ」という怖しい機器があって、道を覚えなくても目的地に連れて行ってくれる。

三台のクルマはそれぞれ好みのコースを選びながら桐生に帰ることとなり、二台のクルマを見送り、私たちのクルマが、最後に「満願の湯」をスタートした。カーナビの言いなりに右折し、直進し、左折して、カーナビは通ったことのない道ばかりを教える。知らない街並み、見たことのない風景を楽しみながら、クルマは深谷・伊勢崎を経由して、私たちのクルマが一番最初に桐生倶楽部に到着しました。おかしいなあ……？　他の二台のクルマは、どの道を通ってきたのだろう……？あとで聞いてみよう……。　（狩野 記）

＝ 倶楽部だより ＝

【2月】
- 歩く会例会「大霧山」　（8日）
- 正副理事長会議　（9日）
- 理事会　（9日）
- 歩く会世話人会　（10日）
- 月次会「まちの駅」　（24日）
- はぐるま句会　（26日）

【3月】
- 歩く会例会「横浜三渓園」　（1日）
- 役員特別懇談会　（5日）
- 理事会　（9日）
- 歩く会世話人会　（10日）
- 文化活動委員会　（22日）
- 月次会「インド仏跡を旅して」　（23日）
- はぐるま句会　（31日）

【退社社員】

大川栄二（逝去）・茂木　浩・渋木敏明
藤井光二・設楽　實・関田純安
星野幸男・吉田正夫・河内正美

社団法人　桐生倶楽部会報　第170号
２００９年（平成21年）　4月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成21年6月10日　2009.　第 171 号 (1)

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL 45-2755

恒例の文化祭

桐生倶楽部恒例の文化祭が5月の8日から10日までの3日間、開かれた。

社員が日ごろたしなんでいる趣味の世界。絵画や写真、陶芸、俳句など、多岐にわたる作品が2階大広間を飾り、囲碁の愛好者らは大会を開いて熱戦を繰り広げた。

また、新緑の庭ではおなじみのガーデンパーティーが催され、大勢の参加者が、おいしい料理と飲み物を味わいつつ、心ゆくまで楽しんだ。

熱戦だった囲碁大会

折々の出会い
芳名録から

1925年来館

森川抱次（もりかわほうじ）

（1869年～1956年）

社会事業家

錦桜橋開通式に臨ム

森川抱次

錦桜橋の開通は1925年の4月。来館の年月日は記されていないが、書き込みによれば、森川抱次はこの式典のためにきたようである。

佐波郡名和村の出身で、熱心なキリスト教徒であり、共愛学園の設立者だ。上毛孤児院、前橋養老院、県立盲唖学校の設立にも尽力した。

月次会報告（4月）

ワインで利き酒

4月の月次会は16日、ワインアドバイザーの山田貴史さんを講師に招いて、約20人の参加者が、ワインの楽しみ方を学んだ。

会場となった2階の大広間は、とても静かでゆったりとした時間が進行した。コの字に組んだテーブルにすわり、パンやサラダをつまみつつ、銘柄をふせたワインをゆっくりと味わいながら、そのかおり、こくなどをひとつひとつチェックしていく利き酒のためである。参加者たちは、感覚を研ぎ澄まし、ワインへの知識を深めた。

信州のお花見遊山

歩く会4月例会

参加者25名、6時30分満員の小型バスにて桐生倶楽部を出発。

天候も良さそうだし、桜も満開らしいしと期待を胸に抱きつつも、用意された沢山の資料を読むのに疲れたのか、早起きのせいか、睡魔におそわれ頭を垂れて舟をこぐ人多数。途中トイレ休憩をとり、予定より早めに上田城跡駐車場に、駐車場は既に満車状態だが、予約しているので無事到着し、上田城の櫓を背景に集合写真を撮影。城内は"千本桜まつり"の最中でどちらを向いても桜満開で、写真を撮る人、あちらを観たりこちらを眺めたりと忙しい人、露天で食べ物を買い込む人等で混雑していました。

一回りした後、市立博物館前に集合でしたが、歩く会の方々も、それぞれのペースで見物しているため、到着順に博物館、美術館を見学した。なかにはお腹の虫に急き立てられてお蕎麦マップや食事処ガイドを手に早めに市中に出て行った方もいたようです。二の丸前の河合邸では沢山のつるし雛が展示されていて、お庭では地酒の試飲サービスもありました。昼食は各自お好みの店でとり、海野宿へ向けて出発、アルコールで上機嫌の人もちらりほらり。海野宿ゆかりの海野山歩さんの紹介の地元ガイドの方に、海野宿について懇切丁寧に説明して頂きました。

今回の最後の目的地小諸城趾懐古園へ！懐古園も桜満開で、集合時間を聞いた後、桜の下での宴会を横目で見ながら分散して散策する。予定時刻の19時頃に無事に桐生倶楽部に帰着いたしました。ご参加の皆さん大変お疲れ様でした。　（吉田　記）

荒山、鍋割、花と親しむ

歩く会、5月の赤城へ

レンゲツツジの群落で名高い荒山高原と荒山、鍋割山登山を企画した例会です。12名の男性に紅一点の岩崎さんが加わって総勢13名の参加者が4台の車に分乗して朝7時に桐生倶楽部を出発。出発前の打ち合わせで、箕輪駐車場は混雑が予想されるので、後藤さんの提案により森林公園駐車場の登山口からのルートに変更になった

空っ風街道の途中から右折しやや狭い道路であるが舗装された道を登ってゆく。途中すれ違う車も無く、8時に駐車場に到着、既に3～4台の車が先着していた。トイレもあり未舗装ながら整備されている駐車場でした。

登山口より一寸登ったところでヤシオつつじを背景に記念の集合写真を撮り登り始める。次第に列は、先頭健脚組、中央本体、しんがりマイペース組に分かれるが、途中小休止で集合し再出発。登りはじめてほぼ1時間後に展望の広場で大休止、広場の隅に咲いているアカヤシオを観てリフレッシュして出発。

途中東向かい側の斜面にヤシオの群落を観ながら進み、十字路で道を左にとりやや平坦な道を荒山高原に向かう。高原では、荒山登山組と鍋割登山組に分かれ、絶好の好天のもと（というより陽射し強く夏の感じ）それぞれの山頂を目指して出発、まだ皆さん体力充分で元気はつらつ、山桜、辛夷、アカヤシオを道端に眺めながらそれぞれのペースで進む。先頭組は9時50分くらいに山頂に到着、小休止後全員で集合写真を撮り下山開始、先頭集団はあっという間に姿が消える、後続はマイペースを維持して降りてゆく、荒山高原で二組に別れ、鍋割山登山組と高原で休息組に分かれる。鍋割山頂上では健脚先頭組が30分前に到着し昼食済みとのこと、スゴーイですね、もしかすると走ってきたのではないでしょうか。山岳登山の大会が間近らしくルート設定がされており、トレーニングや試走の人やグループが走っていました。

木村さんの話では、赤城青年の家をスタートし各鍋割、荒山、黒檜をまわる37キロくらいのルートで6時間くらいで走破目標だそうです。聞いただけで疲れが出ますね。

それぞれのグループが下山し12時40分ごろには駐車場に全員無事に集合し帰途に着く。強い陽射しの中、大変お疲れ様でした。殆どの方は自宅で汗を流した後、ガーデンパーティーで乾杯、飲み物も食べ物もひときわ美味しく頂きました。

（吉田　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

三　月

内と外椿の垣の立話　遠藤
黒点は飛燕となりて大空を　有阪
境内の掃き清められ落椿　大槻
啓蟄に庭を掃く手をやめにけり　塚越
啓蟄の日に合格の祝いして　川村
椿落ちもとのしじまに戻りけり　久保田

四　月

春光や声高にゆくランドセル　大槻
風船の群れ行く先の広い空　川村
風船の園児の夢を運びけり　遠藤
風船に子等文託し大空へ　有阪
風船の割れし音して振りかえり　塚越
春光や大屋根の鴟尾光る古都　久保田

桐生のイコン

ロシア正教の足跡たどる

懇話会、中西さん招く

懇話会は５月22日(金)、元桐生工業高校教諭で現在は市立図書館にて資料整理事業に携わっておられる中西聡氏を講師に迎え、「東毛におけるロシア正教の伝播」と題する卓話を伺いました。神田ニコライ堂で知られる宣教師ニコライが、明治14年（1881）５月に布教活動の為、新里・黒保根・足利に来臨した折の足跡を、中西先生が自ら翻訳した「ニコライの日記」を中心に大変興味深い卓話会となりました。会では梅田・姪間家に伝わるイコンの写真を回覧し、出席者一同その美しさに眼を見張ると共に、歴史的価値の重要さに改めて感動しました。当日の出席者は12名。

（村田・記）

＝ 倶楽部だより ＝

【４月】
- 写真部会　(９日)
- 歩く会例会「信州お花見遊山」　(12日)
- 理事会　(13日)
- 歩く会世話人会　(14日)
- 月次会「ワインの楽しみ方」　(16日)
- ゴルフコンペ　桐生ＣＣ　(25日)
- はぐるま句会　(27日)
- 会員増強委員会　(28日)

【５月】
- 麻雀大会　(２日)
- 春季囲碁大会　(９日)
- 倶楽部文化祭　(8～10日)
- ガーデンパーティー　(10日)
- 歩く会例会「赤城荒山・鍋割山」　(10日)
- 理事会　(11日)
- 歩く会世話人会　(12日)
- 懇話会「東毛におけるロシア正教の伝播」　(22日)
- はぐるま句会　(26日)

【退社社員】(株)ミツバ　馬場　仂　紺野　裕久

社団法人　桐生倶楽部会報　第171号
２００９年（平成21年）　6月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376−0035　桐生市仲町2−9−36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45−2755

前橋と高崎の県庁抗争を解決

折々の出合い
芳名録から

1925年3月19日来館

牛塚虎太郎（1879〜1966）

群馬県知事

牛塚虎太郎は１９２４年に群馬県知事に就任した。来館はその翌年のことである。

富山県に生まれ、東京帝国大学を卒業し、内閣書記官、統計局長、岩手県知事などを歴任した。

群馬県百科事典によれば、道路政策や産業調査会、教育調査会を設立し、県庁をめぐり前橋と高崎両市の抗争に終止符を打ち、県庁舎を改築。名知事の評を得たという。

26年に宮崎県知事に転任し、東京府知事、東京市長、衆議院議員を歴任。東京の時計王、服部金太郎の娘婿。

歩く会７月例会・磐梯山（報告は４面）

若き学のリーダー語る

群大大学院工学研究科長 板橋教授が講演

6月の月次会

地域連携膨らむ期待

群馬大学大学院工学研究科長で工学部長を兼務する板橋英之教授が、6月の月次会で「群大工学部の地域貢献と僕の研究」と題して講演した。同会は「多くの市民に聞いてほしい」という配慮から一般公開となり、盛況となった。

板橋さんは桐生に生まれて桐生に育ち、桐生高校を卒業して群大工学部に入り、つくば大学で研究者となって、ふるさとに戻ってきた人だ。まだ40代の若さである。

専門は応用化学・生物化学。現在研究室において、環境中の重金属元素を取り除く方法を開発していて、たとえばサクラの落ち葉がいちまい水たまりにはまるだけで自然界ではすでにそうした作用が始まっていて、そのひらめきを実験で確かめ、何度も繰り返していくことで、この働きを有害物質の除去に役立てる道を、研究室は探り出してきた。植物の溶出成分や炭を用いた吸着剤がそれ。自然の物質が持つ水の浄化能力の説明は若々しくて、聞くものをぐいぐいと引き込む勢いがあった。

講演はまた、産学官連携への取り組みや地域社会に対する貢献にも及び、大学の基礎研究と私たちの暮らしにつながれていけば地域はぐっとたくましくなるという期待感、多くの知識の蓄積と優秀な指導者の発想、そして年々集まる若く柔軟な頭脳の集合体と、大学の可能性は無尽蔵だと、板橋さんは力づよく語っていた。

（24日2階大広間、参加者30人）

快晴の上信、眺望楽しむ

池ノ平湿原、篭ノ登山、水ノ塔山

6月例会は、上信越国立公園の一角を占める池ノ平湿原散策と篭ノ登山、水ノ塔山登山でした。

6月7日朝6：30、参加者13名は小型バスで桐生倶楽部を出発。高速道路を西に向かうと前方に白煙を棚引かせる浅間山を遠望、天気は快晴、バスは順調に進み、8：50予定どおり池ノ平駐車場に到着。初夏の日差しは強いが海抜2000米の高原の風は爽やかで心地よい。

池ノ平湿原は花の時期には少し早かったが、カッコウが鳴き、シャクナゲやイワカガミを見ることができ、気分のよい散策となった。

兎平の登山口に戻り10：00登山開始。篭ノ登山は標高2227米で、標高差は少なく、登山道は良く整備されており、新緑を楽しみながらの快適な登山が続く。やがて森林限界をすぎ視界が開けると、ひと登りで山頂に到着。1等三角点のある頂上は樹木がなく、全面岩肌で覆われているが、360度の展望は素晴しく、黒斑越しに噴煙を上げる浅間山の大きな山頂が印象的であった。

水ノ塔山（標高2202米）への縦走は、草付の斜面の下りから始まり、南面が切れ落ちた赤ゾレの尾根を慎重に進む。登り返しと短い急登があり、低い樹林帯を抜けると南に開かれた明るい感じの山頂に到着。眼下に高峰温泉が見え、小諸、佐久平が俯瞰できる絶好のテラスでのお弁当は本当に美味しく、まさに至福の境地、眺望を楽しみ記念撮影後12：30下山開始。

直下の岩場では少々難行したが、13：20全員無事高峰温泉に下山。ここでの入浴は超満員のため変更し、浅間山荘天狗の湯で汗を流し帰路に。上信越道渋滞のため予定より遅れ、18：20桐生倶楽部帰着。

天候に恵まれ、全員が楽しんだ山行でした。

（岩崎　記）

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

日本百名山

「磐梯山」を目指す！

「歩く会」７月例会は例年通り、梅雨明けを待っての7月26日。しかし、数日前に北海道の山で遭難事故があったばかりで、その上天候不順で当日の天気予報も降水確率70％！、そんな事で参加人数も12名と一寸少なめ（残念）。

予定通り早朝５：00桐生倶楽部出発。八方台登山口へ８：55着、心配した天気も上々で目指す「磐梯山」も大きく手を広げたようにオイデ・オイデ!!山仕度をして、いざ山頂へ。

途中のペースが以外と早く、前日の雨の悪路も順調に通過。「中の湯」「弘法清水」迄３回休みを取り、ここの水場で大休止。

とにかくここ迄の疲れを取って全員元気に山頂へ、予定時間を40分も短縮してここで昼食11：50～12：20。ほっとしていると遠くから雷鳴が聞こえてきたので急いで下山の用意、そしてスタート。

「弘法清水」でひと休みした頃から雲行きが怪しくなり、段々足早となり、疲れも出始めた「中の湯」の近くから小雨が降り出しても全く雨具の必要ない位の雨に救われて、全員１時間早く完歩！ＰＭ２：15着。

参加者の協力により当初予定になかった入浴して汗を流すことになり、「磐梯山温泉おおるりの湯」へ直行。ＰＭ３：40出発、一路桐生へ。

桐生倶楽部ＰＭ８：00着。参加者の皆様お疲れさまでした。

（中里　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

五月

下野の国と染めけり夏の秋　　遠藤　勝久
街路樹の若葉は揺れて乱反射　　森　寿咲
流みゆく夕日大きく夏の秋　　有阪　昌治
遥かなる沖より汝や夏の秋　　大槻　圓珠
山若葉リュック送んで登山駅　　川村　隆
夏秋に駒下駄ばくりばくりかな　　塚越　平人
真の沈若葉の色のすすぎ水　　久保田広人

六月

母子らし傘の傾むく花菖蒲　　遠藤　勝久
ありし日の兵舎はいづこ草茂る　　有阪　昌治
網戸して世間の音の騒がしき　　大槻　圓珠
誘蛾灯ジジジ・ジジジと命鳴く　　川村　隆
虫落ちてもがく間もなき誘蛾灯　　塚越　平人
草茂る何やら住みて屋敷跡　　森　寿咲
誘蛾灯下駄音ひびく湯宿かな　　久保田広人

＝ 倶楽部だより ＝

【6月】
- 歩く会例会「水ノ塔山・箕ノ登山」（７日）
- 理事会（８日）
- 歩く会世話人会（９日）
- 社員増強委員会（16日）
- ６月月次会「群馬大学工学部長講演」（24日）
- はくるま句会（30日）

【7月】
- 理事会（13日）
- 歩く会例会「磐梯山」（26日）
- 正副理事長会議（27日）
- はぐるま句会（28日）
- ７月月次会「桐生市の活性化は観光から」（29日）

【入社社員】
荒木千恵子・藍原京子

【退会社員】
近藤健司（逝去）

社団法人　桐生倶楽部会報　第172号
２００９年（平成21年）　8月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　刷　ツボノ印刷株式会社

平成21年10月10日　2009.　第 173 号 (1)

桐生倶楽部会報

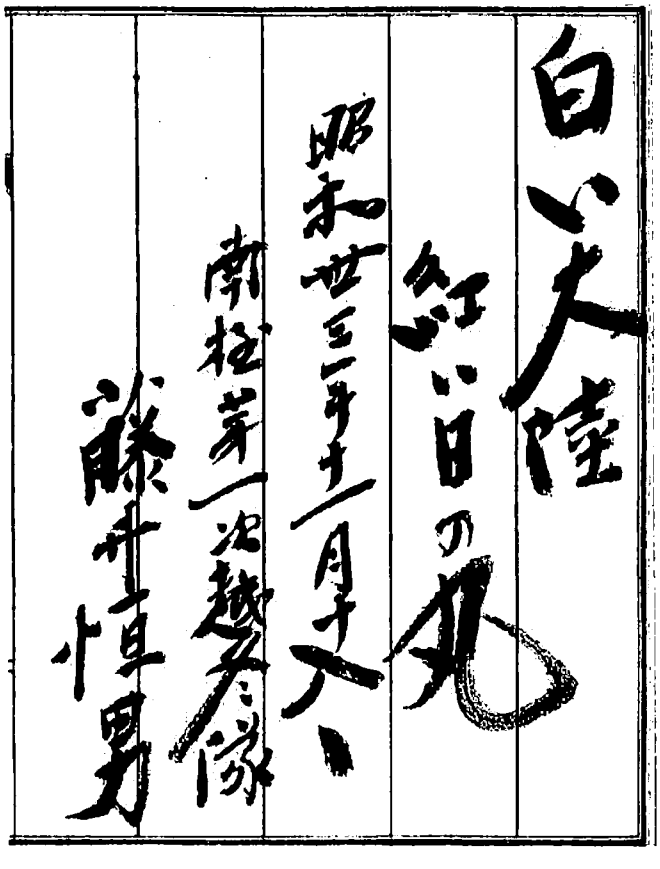
〒376−0035　桐生市仲町2−9−36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45−2755

折々の出合い
芳名録から

1958年11月18日来館
藤井恒雄
南極第一次越冬隊

第１次南極予備観測隊員53人を乗せ、砕氷船「宗谷」が東京湾を出港したのは1956年11月8日午前10時40分。永田武隊長は地球理学者、西堀栄三郎副隊長は電々公社特別研究室長で日本山岳会評議員。観測要員23人は平均年齢35歳、気鋭の研究者集団で、隊員の中には彼らを支える役割を担って、医療や調理のスタッフのほか、朝日新聞の社員が７人いた。航空関係４人と通信担当の無線技術者、そして東京社会部の記者。資料によると、藤井さんは当時、朝日の航空部次長という立場だったようである。

国際地球観測年の事業として各国に呼びかけられた南極観測。日本がこれに参加するまでの過程において、大きな役割を果してきたのが朝日新聞だった。



越冬の様子をつぶさに記録

昭和基地を開設し、57年２月から翌年２月までの１年間、11人の隊員が南極で越冬をなしとげたが、藤井さんは越冬隊に加わり、その様子をつぶさに映像に記録したのも藤井さんだ。

署名は日本に帰国した年の秋、倶楽部の招きで講演をしたときのものだと思われる。

桐生市活性化は観光から
わたらせ渓谷鐵道沿線売り出せ

月次会報告（7月）

宮地さん

7月の月次会は29日、「絹と銅のまち　ノスタルジー紀行」と題して行われた。

これは「桐生市活性化は観光から　乗ってみたいローカル線No.1　わたらせ渓谷鐵道」という冠を持ち、昨年9月からことし3月にかけて、桐生市、みどり市を対外的に観光分野で売り出すための企画の集大成としてまとめられた企画書のタイトルだ。国土交通省関東運輸企画観光部の助成を受けて、桐生市やみどり市、足尾町の観光関係者やボランティア、観光の専門家、コンサルタントなどのほか、20人のモニターツアー参加者の協力と意見を反映し、作成されたもので、3月に東京で開かれた観光商談会のプレゼンテーションで反響のあったものを中心に体感してもらい、新たな観光資源の再発見につなげたいと企画された。

事例の紹介者として、桐生観光協会の宮地由高さん、NOP法人桐生再生の清水宏康さん、ながめ里子の会、小屋雅義さんが登壇し、それぞれのまちにある資源、日ごろの活動についてふれた。

（2階広間　参加者25人）

清水さん

小屋さん

香取神宮・犬吠埼へ
歩く会が9月の月次会

桐生倶楽部9月・月次会は歩く会が担当して、香取神宮と銚子犬吠埼を旅行しました。5：15に桐生倶楽部を出発、参加者36名。早朝のため暫くは仮眠。バスは東北道・首都高速・関東道を経て、8：10に最初の訪問地・香取神宮へ到着。

香取神宮は日本書紀に依れば神武天皇18年（これは紀元前643年にあたり科学的には疑問が有ります）創建の大和朝廷縁の神社です。平安時代に「神宮」の称号で呼ばれていたのは伊勢神宮・鹿島神宮・香取神宮三社だけで、鹿島神宮と共に蝦夷に対する大和朝廷の前線基地として如何に重要な役割だったかの証拠です。鬱蒼とした樹々と夏の名残の蝉の声の中、神宮本殿を参拝、記念写真。宝物館では国宝の「海獣葡萄鏡」や国重文で250円切手の図案にもなっている「古瀬戸黄釉狛犬」などが眼を楽しませてくれた。

銚子市へ移動して、銚子電鉄・銚子駅から犬吠駅までは6キロを17分で行く電車の旅。数年前廃業騒ぎになった折り、会社を救った「ぬれ煎餅」を味わったり、お土産に買ったり。犬吠駅からは徒歩で満願寺～「地球が丸く見える丘展望台」へ。海上には僅かに雲が掛っていて弧を描いた水平線を確認することは出来ませんでしたが、ビールで喉を潤す人や、記念写真を撮る人など、大平洋の景観を楽しみました。

昼食会は犬吠埼突端の「みさき亭」で窓外に大平洋を望みながら、新鮮なお刺身を堪能。食後は犬吠崎灯台（明治7年完成・高さ31米）へ登る人、海岸を散策する人などフリータイム。銚子漁港に隣接する水産物卸売りセンター「ウオッセ21」では、皆さん新鮮な魚を沢山お土産に買い求めました。

この日最後の訪問地・飯沼観音円福寺は坂東三十三観音の二十七番で、鎌倉時代よりこの町が門前町として栄える由来となったお寺です。本堂・五重塔など立派な伽藍ですが、門前のお店は日曜日なのにシャッターを下ろしていて寂しい限り。市民病院閉鎖などに象徴される市勢の衰退を感じました。帰路も予想外に渋滞は無く、予定より早く19：10に倶楽部へ帰着。初秋の陽光の中、楽しい銚子方面への遠足となりました。

（村田・記）

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

蚊平や婦合将棋始まりし	大槻　園珠
孫たちが分から合ひたる心太	塚越　平人
蚊平やまたまた伸びし孫の脛	有阪　昌治
荷番のライブのテント暑かりし	遠藤　勝久
今日こそと買ひ食ひしたり心太	川村　隆
糸道に茶店のありて心太	久保田広人

八月

遠花火山の彼方にすっと消え	有阪　昌治
ひこ孫の指に下りし花火かな	塚越　平人
山越えて牡丹花火の端見ゆる	川村　隆
かすかなる音運び来て遠花火	大槻　園珠
前山にこだま返して遠花火	遠藤　勝久
夕立の傘抱き人へめがけ降る	久保田広人

＝ 新入社員紹介 ＝

[redacted]

現代の名工

荒木さん1号室で作品展

刺繍作家で洋画家の荒木千恵子さんの個展「巧の技・糸で描く絵画」が、9月25日から3日間にわたり、1号室で開かれた。倶楽部社員でもある荒木さんの「国の有形文化財に指定された建物と共に作品を味わってほしい」という思いがあって、実現の運びとなったものだ。

荒木さんは父の荒木喜三郎さんから手刺繍を受け継ぎ、その後、オリジナルのスケッチを原画とし、横振りミシンで絵を描くように刺繍を施す方法を考案。その技術が認められて、２００４年には「現代の名工」にも選ばれている。

ヨーロッパの風景画から、舞妓や能役者などの「和」をテーマにした作品、中国の少数民族やアフリカのファミリーを描いた最新作などを並べて展示した。

＝ 倶楽部だより ＝

【8月】
- ・理事会（後納涼会）　(10日)
- ・歩く会世話人会　(11日)
- ・はくるま句会　(30日)

【9月】
- ・歩く会・月次会合同例会「銚子・香取神社」　(13日)
- ・理事会　(14日)
- ・歩く会世話人会　(15日)
- ・はくるま句会　(25日)
- ・社員増強委員会　(29日)

【入社社員】

柳　利雄

【退会社員】

社団法人　桐生倶楽部会報　第173号
２００９年（平成21年）　10月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　刷　ツボノ印刷株式会社

平成21年12月10日　2009.　第 174 号 (1)

桐生倶楽部会報

〒376−0035　桐生市仲町2−9−36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45−2755

折々の出合い
芳名録から

趣味の園芸 司会のころ

「花も実も根ありてこそ」というひとことからみて、NHKテレビで「趣味の園芸」の司会を担当していたころの来桐か。ピアニストであり、作曲もこなし、東京藝術大学の大学院在学当時から多彩な活動で知られてきた人である。

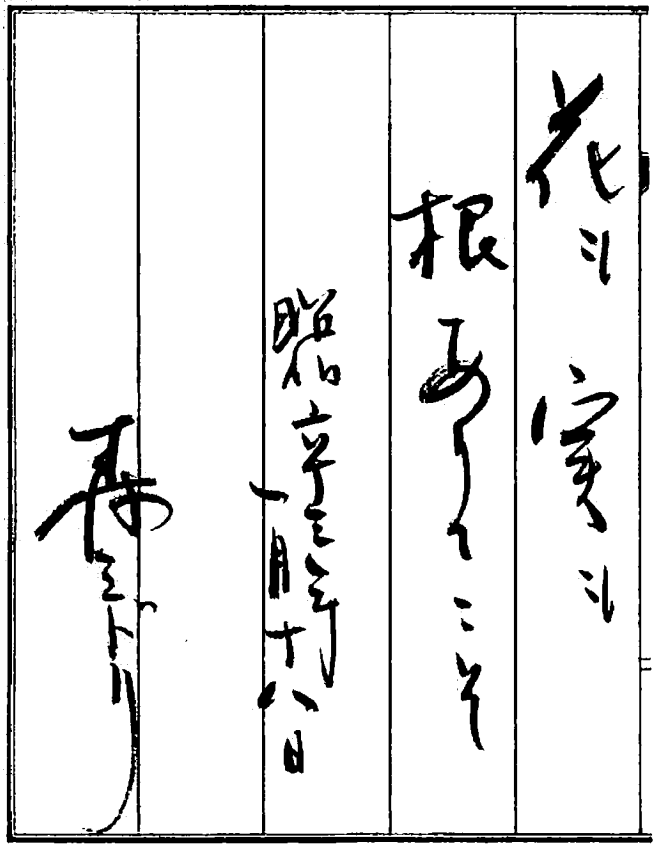
名古屋市生まれ。『東京緑散策』『花いっとき』『花のエチュード』『雲の歌　風の曲』などの著書がある。現在、国立国語研究所評議員、日本植木協会顧問、金沢大学非常勤講師、スポーツ文化会評議委員などを務め、テニスやウォーキングや登山、カヤック、園芸、篠笛、能楽鑑賞と趣味も幅も広い。

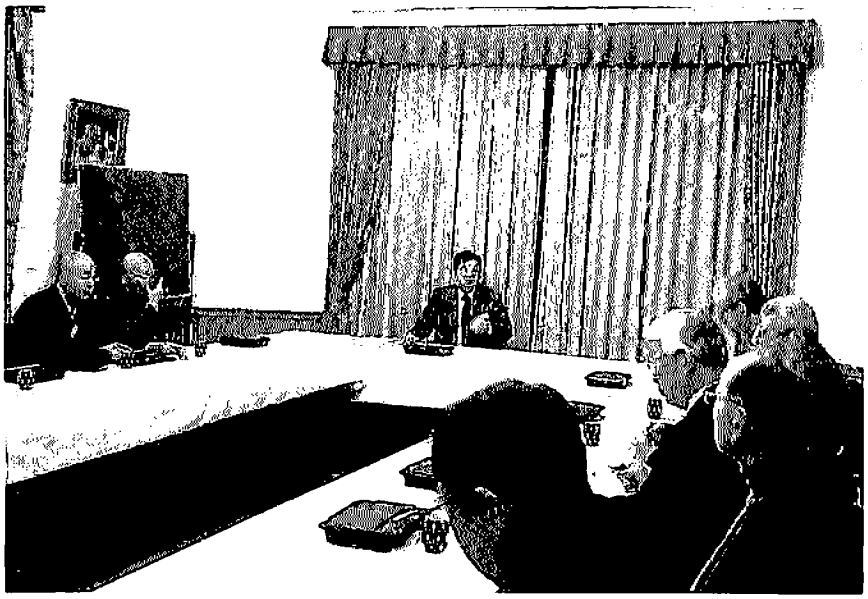
1988年1月18日来館

森（もり）　ミドリ（みどり）

（1947年〜）

音楽家・エッセイスト





新型に備える

飯山医師がインフル対策　月次会報告・11月

11月月次会は、流行が心配されている新型インフルエンザの予防と対策について、桐生市医師会の副会長、飯山三男さんが講演した。

飯山さんは、新型Ｈ１Ｎ１と呼ばれるインフルエンザの特徴は、季節性インフルエンザと同程度の病原性を持つ弱毒性ウイルスで、主に10代、20代に感染患者が多いこと、74歳以上の40％で抗体の陽性がみられること、ほとんどの患者は軽症のインフルエンザ様症状を呈し、治療せずに回復しているが、慢性基礎疾患のある人に重症化するケースもみられるほど、資料に基づき解説した。

その対策として、地方自治体と連携した適切な感染防止対策の実施、大規模な流行に対応した医療体制の整備、ワクチンの確保と摂取の実施、的確なサーベイランス、広報による注意喚起などが総合的に展開されており、死亡者や重傷者の発生をできるだけ減らすことを目的にしてワクチン接種が行われていると、現状を説明した。

17人が参加した。　（11月５日、１号室）

日本酒をたしなむ・蔵元が伝授

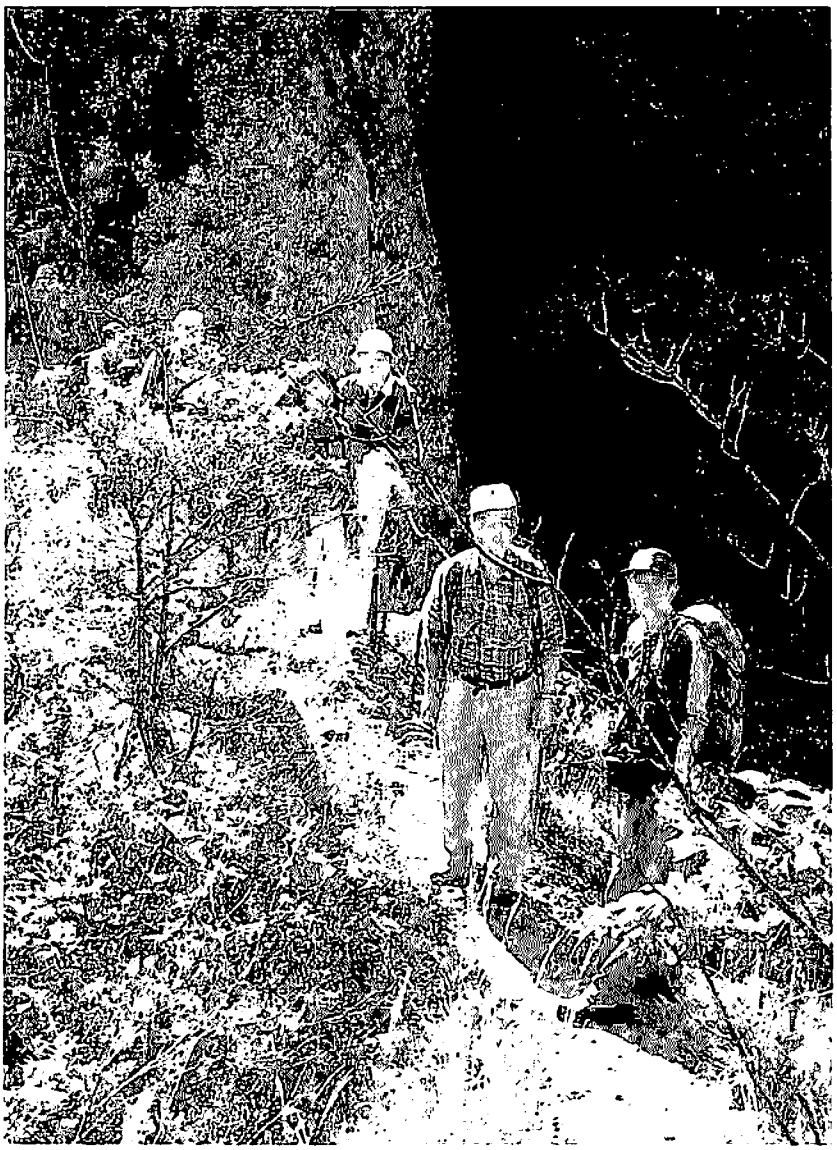
月次会報告・10月

10月の月次会は26日、「日本酒の楽しみ方」と題して、２階大広間に参加者３２人を集め、にぎわいのうちに開催された。

講師は奥村酒造の９代目、奥村秀俊さん。大間々町にあり、味わいある風情で知られる蔵元だ。

日本酒は分類でいえばワインやビールと同じ醸造酒。原料に米を使うことが定められていて、製法や性状により課税上、しっかりとした区分があり、また、燗してよし、冷やしてよしと、飲用温度に幅のあることなど、奥村さんはそうした日本酒についての基本的な特徴や種類を紹介。その後参加者は、日本酒に合う料理を味わいつつ、用意した５種類の酒できき酒を楽しんでいた。

黒滝山のスリルと展望



歩く会10月例会

10月18日、昨日の雨が嘘のように晴れ、山登りには絶好の天気になった。

参加者10名はマイクロバスで午前7時30分桐生倶楽部を出発、渋滞もなく黒滝山不動寺駐車場に午前9時10分到着。

黒滝山不動寺は千余年の歴史をかさね、関東の高野山とも言われる古寺。全員で本日の安全を祈願し出発する。

登り始めてすぐに最初の難関、馬の背渡りのナイフリッジの登高となる。かつて修行の行われた荒々しい岩場で見るからにスリル満点、両側とも切り立った絶壁で全員真剣な面持ちで渡る。途中で景色を見る余裕もなく、次から次へとあらわれる鉄梯子とクサリに取り組んでいった。いつの間にか出発したお寺が下の方に小さく見え、全員絶景に喚声を上げる。

この先見晴台、観音岩（別名・五老峰）と登るが、西上州特有の岩峰でクサリ等身体を確保する物もなく、岩にしがみついて景色を楽しんだ。

観音岩からの下りはガレ場で気の抜けない道だが、九十九谷（つくもだに）岩稜のダイナミックさに驚き、また岩場に見える木々も紅葉し始め、素晴しい景色を堪能した。

午後1時30分全員無事駐車場に到着。

標高870米の低山だがスリル満点のコースで高い山に登った趣があり、皆久し振りに登山を満喫した様子。

帰りに下仁田温泉清流荘で汗を流し、午後4時すぎ全員無事桐生に到着。

（栗原　記）

小池さん名誉社員に

小池久雄さんが名誉社員となりました。11月9日の理事会で決定したものです。

小池さんは1950年の入社で85歳、倶楽部活動を中心的に支えて、88年から2007年まで副理事長を務めてきました。

紅葉の鳴神山へ

11月歩く会

近くて人気の高い鳴神山ですが、桐生倶楽部としては8年ぶりの山行で、今回はあまり利用されていない赤芝コースを登りました。

11月8日朝8時参加者8名は2台の車に分乗して桐生倶楽部を出発、8時半広土橋先の駐車場に到着。風もなく山行には最適な天候に恵まれ、歩き始めました。赤芝ルートは他のルートに比べ、道はなだらかで歩きやすく、ちょっと早い紅葉を楽しみながら頂上を目指しました。頂上手前を急登すると双耳峰の仁田山岳で、そのすぐ先がピークの桐生岳です。約2時間で頂上に着き360度の大展望に歓声を上げ、景色を楽しみました。

鳴神山から桐生方面に続く山並みの先に、いつも登っている男吾妻、女吾妻の山容がはっきり見え、また下の方には桐生の市街地や桐生川が望めます。

昼食の後11時下山開始。帰りは沢歩きや岩場など変化がある駒形ルートで、皆慎重に歩き、12時駐車場に到着。

さわやかな秋の山行でした。

（栗原　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

何にでも斧振り上げて子蜻蛉　大槻　国珠

ふる里の山河輝く良夜かな　遠藤　勝久

光得と切る蜻蛉橋に仁王立ち　森　青咲

蜻蛉や辺り寂ぶる身の構え　有阪　昌治

良夜なり月光々と雲の上　塚越　平人

犬座り小首傾げる良夜かな　川村　隆

コスモスの立ち話聞く短根かな　久保田広人

十月

朝寒の天満宮に受験生　塚越　平人

屋敷跡無人の蔵に秋の風　森　青咲

朝寒や今日の予定と床の中　有阪　昌治

秋の風赤帽かぶる辻地蔵　川村　隆

背なすこし丸めて急ぐ秋の風　大槻　国珠

朝寒や思はず衿を合せけり　遠藤　勝久

朝寒や靴ひも固く結びけり　久保田広人

＝ 倶楽部だより ＝

【10月】
- 理事会（後納涼会）（13日）
- 歩く会例会「黒滝山」（18日）
- 歩く会世話人会（20日）
- 月次会「日本酒の楽しみ方」（26日）
- はぐるま句会（30日）

【11月】
- 月次会「インフルエンザの予防と対策」（5日）
- 歩く会例会「鳴神山」（8日）
- 理事会（9日）
- 歩く会世話人会（12日）
- 女性社員との集い（社員増強委員会）（16日）
- 行事委員会（24日）
- ＪＣと理事との懇談会（24日）
- 写真部会（25日）
- はぐるま句会（26日）

社団法人　桐生倶楽部会報　第174号
２００９年（平成21年）　12月発行
発 行 人　阿 部 高 久
編集責任者　前 原　　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成22年2月10日　2010.　第175号（1）

桐生倶楽部会報

〒376−0035　桐生市仲町2−9−36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45−2755

新年の船出

活用と修復 使命果たす

桐生倶楽部の平成２２年新年互礼会が４日、２階大広間で盛大に開かれ、あいさつに立った阿部

新年互礼会で阿部理事長抱負

高久理事長は、近代化遺産である会館の活用と修復が使命であると述べ、市民に広く貸し出していきたいと、運用の大切さを訴えた。

従来は開放していなかった別館、さらには理事長室、ロビーも対象になる。そうした賃貸料を営繕に活用し、そうした実情を市民に知ってもらうことが、公共の資産である会館にとっては重要な意味を持つという認識だ。阿部理事長はまた、会員増強にいっそうの力を入れていきたいとした。

当日は６２人が参加。亀山豊文桐生市長や石原丈みどり市長、石関貴史衆議院議員、桐生商工会議所の佐藤富会頭らが来賓としてあいさつし、また、新春を祝い、山田流箏曲の小島恵美子さんらが琴の音色を披露した。（２階大広間）

折々の出合い
芳名録から

1985年12月来館

田川誠一（1918～2009）

政治家

ひとり進歩党

自民党を離党して１９７６年に旗揚げした新自由クラブだが、このとき、参画の決心にもっとも時間がかかったのが田川誠一さんだったそうである。そして８６年、党勢の退潮によって他の仲間が自民党に復党する中で、ひとりこれを拒み、進歩党を結成したのが８７年のことである。

神奈川県横須賀市の出身。慶應義塾大学を卒業後、朝日新聞社に入社し、退社後に衆議院議員秘書を経て、６０年に衆議院選挙に初当選した。

８３年、総選挙で過半数割れとなった自民党と連立内閣を組み、第２次中曽根内閣の自治大臣に就任。ハト派、親中派として知られた。９３年に議員引退を表明し、進歩党を解散。２００９年８月死去した。享年９２だった。

盛大にクリスマス祭
深津さんミニコンサート

桐生倶楽部のクリスマス祭が１２月５日、７３人の参加者を集め、にぎやかに開かれた。

このクリスマス祭は９０年を越す倶楽部の歴史の中でもっとも伝統があり、社員とその家族同士の交流の場として位置づけられている。

ことしは深津素子さんのミニコンサートで幕を開け、参加者は歌の調べで心を潤したあと、おいしい料理を味わいながら談笑を楽しみ、子どもたちにはたくさんのプレゼントが用意され、今年も盛りだくさんの趣向で繰り広げられた。

（２階大広間）

禁煙になりました

桐生倶楽部会館は平成２２年１月１日から全館禁煙になりました。社員のみなさま、協力をよろしくお願いいたします。

カラスの巣を撤去

桐生倶楽部の敷地の際の電柱に、カラスが巣を作り、その撤去作業が行われた。

巣材はいま、木の枝よりも金属製のハンガーなどが主流になって、停電などのトラブルの原因となることが少なくない。写真は取り除かれた巣だが、案の定、かなりの金属が骨組みとして使われていた。

秋の鎌倉・江ノ島をゆく

12月例会　38人遠足気分

12月13日、歩く会・美術部協賛12月例会は鎌倉・江ノ島を旅行しました。

参加者38人、夜明け前の6：00倶楽部を出発。バスは9：10大船に到着して大船観音寺に参拝、散策。高さ26米の白衣観音像は昭和35年完成と歴史は浅いものの、鎌倉の北の入り口に位置するランドマークです。大川美術館前館長の故大川栄二さんは、このお寺の境内に眠っているとのこと。ここからは電車を乗り継いでの遠足。まず横須賀線(電車賃￥150)で鎌倉駅まで。鎌倉雪ノ下の住宅街の一角にある「鏑木清方記念美術館」は清方が昭和47年に93歳で亡くなる迄の18年間暮らした自宅&アトリエを開放したもの。展示数は少ないながら清方の生の芸術に触れて、参加者一同大いに満足。鎌倉駅迄戻る小町通りは大変な人込みで、骨董店のウインドウに見入ったりお土産を買ったりとなかなか駅迄到着出来ません。ここから江ノ島迄は相模湾を眺めながら「江ノ電」で20分程の電車の旅(電車賃￥250)。

参加者の多くは修学旅行以来何十年ぶりかの江ノ島の景色とあって、感慨もひとしおです。中には、昭和20年戦局の悪化で修学旅行が取り止めになった為、64年経って初めて江ノ島を訪れたという方もいらっしゃいました。江ノ島駅の北「龍口寺」は、鎌倉幕府の刑場跡に建てられた日蓮宗のお寺で、観光客を集めるお寺ではありません。由緒ある壮大な伽藍と山門扉の見事な彫刻に眼を奪われての参拝と境内散策でした。

昼食会場となった江ノ島「岩本楼」は宇多源氏に繋がる(千百年前ということです)家系の由緒ある旅館。館内のローマ風呂は国登録有形文化財で、ステンドグラスの製作者・別府七郎は靖国神社・遊就館のステンドグラスを手掛けた人です。山鹿さんによれば、別府七郎は桐生境野出身の人だそうです。食後はフリータイムで島内巡り。途中に桐生ゆかりの佐羽淡斉の詩碑が有り、別府七郎と併せて江ノ島と桐生の不思議な繋がりに改めて感動しました。夫々沢山のお土産を買い込んで、16：00江ノ島を出発。途中道路状況は順調で予定通りの20：00に倶楽部へ無事帰着。晩秋の休日、楽しい鎌倉・江ノ島遠足でした。

(村田　記)

桐生倶楽部はぐるま句会

十一月

小春日やトタンの屋根を雀ども　大槻　圓隙

徒寺の鉢日暮く小春かな　森　寿咲

駒高に拵者けたる七五三　有阪　昌治

小春日に丞のひこ孫授かりぬ　塚越　平人

起伏して大根畑に尾瀬の雨　遠藤　勝久

子象来て鼻に飴持つ七五三　川村　隆

小春日や似た顔探す雅渓寺　久保田広人

十二月

手袋を脱いでメールの指早き　大槻　圓隙

小波の水面輝く甚子かな　遠藤　勝久

冬菜つむ孫の手赤くかわゆらし　塚越　平人

冬菜の七買い物かごの豪華なる　川村　隆

甚鳴きに心和らぐ秋庭かな　有阪　昌治

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

歩く会が初登り

吾妻山で新春祝う

「歩く会」の初登りは、恒例の吾妻山(481米)です。1月10日9:30吾妻公園駐車場に集合した17名は、賀詞交換の後、快晴無風の山行日和のもと、頂上を目指し出発し、10:30全員山頂へ。関東平野・富士山を遠望しながら暫時休憩。記念撮影後、女吾妻を経て村松沢を下り、12:00新年会会場の「そば一」(宮本町)へ到着。

新年会は、直行組の参加者も多く、賑やかに盛り上がり、14:00に散会した。

新春にふさわしい明るく楽しい山行でした。

（岩崎　記）

＝ 倶楽部だより ＝

【12月】
- 行事委員会（クリスマス祭準備）　(4日)
- 臨時社員総会　(5日)
- クリスマス祭　(5日)
- 正副理事長会議　(7日)
- 歩く会例会「江ノ島・鎌倉」　(13日)
- 理事会　(14日)
- 歩く会世話人会　(15日)
- 行事委員会（新年互礼会準備）　(28日)
- はぐるま句会　(28日)

【1月】
- 新年互礼会　(4日)
- 歩く会例会「吾妻山」　(10日)
- 理事会　(12日)
- 歩く会世話人会　(14日)
- 監査会　(18日)
- はぐるま句会　(28日)
- 臨時理事会　(29日)
- 定時社員総会　(29日)

社団法人　桐生倶楽部会報　第175号
２０１０年（平成22年）　1月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

定時社員総会報告

平成 22 年度定時社員総会は 1 月 29 日午後 6 時 00 分より二階広間で開催され、満場一致で全議案が原案どおり可決されました。

総会は松島理事の司会で、森副理事長の開会のことばに続き、全社員２５３名中１９１名(委任状１５６名を含む)の出席で総会成立(過半数)を確認したとの報告がなされた。阿部理事長のあいさつのあと、理事長が議長となり議事に入った。

第 1 号議案　平成 21 年度事業報告承認の件　(矢野副理事長)
第 2 号議案　平成 21 年度収支決算承認の件　(竹内理事)
　　監査報告 (酒井監事)
第 3 号議案　平成 22 年度事業計画(案)承認の件　(矢野副理事長)
第 4 号議案　平成 22 年度収支予算(案)承認の件　(竹内理事)

山口副理事長の閉会のことばのあと午後 7 時 05 分閉会となった。

２２年度役員は昨年に引き続き下記のとおりです。

(理 事 長)　阿部 高久
(副理事長)　矢野 昭　森 壽作　山口 正夫
(会計理事)　竹内 康雄　松島 宏明
(理　　事)　佐藤 富三　岸 芳正　北川 洋
　　坪井 良廣　江原 毅　根津 紀久雄
　　前原 勝　塚越 紀隆　藤江 篤
　　岸田 信克　前原 勝良　宮地 由高
(監　　事)　酒井 豊　押見 新一郎

以　上

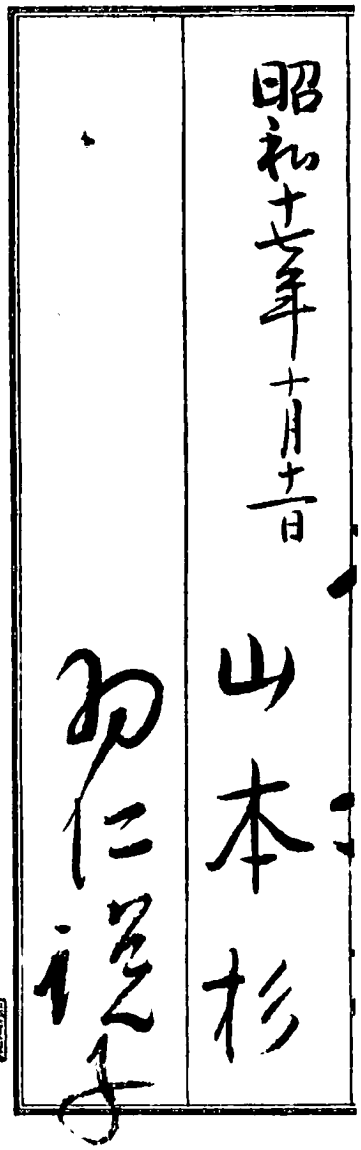
平成22年4月10日　2010　第176号（1）

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45-2755

折々の出会い
芳名録から

1942年10月11日来館
山本杉
羽仁説子
（1903～1987年）
評論家



昭和の婦人運動の実践者

羽仁説子は婦人之友社の羽仁吉一、自由学園長の羽仁もと子の娘で、桐生出身の歴史学者羽仁五郎の妻である。昭和期の教育、婦人運動の実践と評論で、活躍してきた人である。桐生倶楽部へは、婦人運動の仲間、山本杉と訪れた。

戦中の羽仁五郎は国家権力からにらまれる存在だった。そんな夫を、危険を顧みず支えたのが説子である。戦後の参議院選挙で五郎が当選したのも、説子の力が大きかったといわれている。

自由学園の縁で羽仁五郎と結婚

二人の出会いは関東大震災がきっかけだ。留学先のハイデンベルグで安否を気遣っていた五郎のもとに、無事を知らせる妹の頼りが届いた。

羽仁吉一ともと子が創設した自由学園で学んでいた妹は、地震発生時が夏休み中であったにもかかわらず、大勢の学生が学校の無事を確かめにやってきて、無事だとわかると学生たちはすぐに避難してきた多くの人の救援活動を始めたと、その生き生きとした様子を伝えた。手紙を読んで、五郎は感動し、自由学園という存在に大きな関心を抱き、その学生運動の中心になっていた説子に敬意を抱いたと後年、著書に書いている。

夢の水処理技術でまちおこしを

小島さん、炭素繊維を語る

月次会報告（3月）

3月の月次会は「夢の水処理技術」と題し、群馬工業高等専門学校の小島昭特命教授が、炭素繊維を利用した水質浄化の可能性と、この製品の技術開発によるまちおこしについて、語った。

小島さんは、炭素繊維を使った水環境の再生が近年大きな展開を見せていることを、国内をはじめ、フィリピンや中国など海外の実験の様子を写真でたどりながら具体的に解説。シート状の炭素繊維とくぎを入れるだけでリンが回収できるようになり、「環境に負荷をかけずに、大量のエネルギーを投入することなく、アオコの発生を防いだり、リン汚染や悪臭を抑えることができるようになった」と、成功例をあげた。これはすでに畜産し尿の処理などに活用されているという。

現在、この炭素繊維は桐生と西陣で製品化されているが、京都では、この技術開発を行政が支援し、体制が整いつつある。桐生においても、炭素繊維の技術開発をまちおこしにつなげてもらいたいと、小島さんは出席者に熱く語りかけた。

（3月18日、参加者18人）

不動産事情を解説

月次会報告（2月）

2月の月次会は株式会社アシスト代表取締役で宅地建物取引主任者の須藤広志さんが、桐生広域圏の不動産事情などを語った。

須藤さんはこのなかで、モノとしての権利書がなくなって、12桁の符号である登記識別情報となった近年の事情にふれ、デジタルデータ化に伴う登記識別情報の扱いについての注意点などを解説した。（2月23日、参加者21人）

展望と花を楽しむ

歩く会、3月は仙人ヶ岳

2月から続いた天候不順が3月に入っても変わらず、14日の当日も4日前に降った雪の影響で中止も考えたが、久しぶりの晴天で申込者11名全員で行け行け…で桐生倶楽部を予定通り午前9時出発！

途中「白葉峠」で数カ所倒木があり徐行で通過。登山口駐車場も空いていて9時30分準備完了して岩切登山口を出発。生不動迄2回小休止途中増水した沢を8回程右に左に慎重に渡り、又倒木も数

カ所道を塞いでいてまたいだり、くぐったり、廻り込んだりの歩行で声をかけあって全員無事通過。生不動で45分で到着。しかしここは先着組で満席でそのまま５分程行った処で大休止。ここからは沢すじから離れて歩き易くなり「熊の分岐」へ向かって急登35分で分岐の尾根に出た。

これを右に下ると「猪子峠」。我々一行は左折して18分程で小ピークそのまま通過して山頂へ11時10分着。記念写真を撮って草原で軽食を食べ午ら360度の展望を楽しむ。（深高山、赤雪山、野峰男体山）山行案内にあったマンサクの花が咲いていないと誰となく声が上がり、聞こえないふりをしていたら、別のグループが木立の中のマンサクを見つけてくれて、面目ははたした。

11時40分下山出発の号令で「熊の分岐」からそのまま往路を戻る足取りも軽く小休止２回で生不動へ12時20分着。ここで行きには休めなかった分を休憩。その後はカタクリの花を見つけたりい午ら登山口へ全員完歩、12時55分着、桐生倶楽部13時20分！参加者の皆様御苦労様でした。

「歩く会」４月例会は14日「角田山」です。参加おまちしてます。　（中里・記）

越生観梅は三分咲き

２月に例会に黒山三滝・高麗神社

２月28日朝６時40分、小雨の中桐生倶楽部を出

発、参加者19名。観梅のスケジュール設定は難しいものです。室町時代から続くといわれる２ヘクタール程の広さの越生梅林は、昨年は２月末に満開との情報でこの日にしたのですが、訪ねてみると三分咲き程度。傘をさしての園内散歩となりました。

梅林を一時間程で切り上げて、次の訪問地太田道灌所縁の「龍穏寺」へ。ここは江戸時代、関三刹（他は大中寺・栃木大平、総寧寺・千葉市川）の筆頭として十万石の格式で全国の曹洞宗寺院を管掌したという由緒あるお寺です。境内には室町時代の武将太田道真・道灌父子の墓があります。

「黒山三滝」は丁度吾妻公園二つ分の広さの谷間の中に、男滝・女滝の二段の滝と、天狗滝の三つの滝を有する散策コース、昭和25年日本観光百選・瀑布の部で９位に選ばれたとのこと。紅葉の季節に訪れたらきっと美しい景色に違い有りません。道中、地元の酒蔵・佐藤酒造へ立ち寄ってお土産の日本酒を少し（？）お買い物。この頃には雨は上がり、くもり空の下での散歩となりました。

昼食は埼玉県の厚生年金施設「ウェルサンピア・おごせ」で。食後は隣町・日高市に移動して、「高麗神社」へお参り。この地は、唐・新羅に滅ぼされて日本へ亡命した高句麗遺民1,799人を、716年にヤマト朝廷が武蔵国に移して高麗（こま）郡を置いたという歴史有る地区です。朝廷は高句麗王族の高麗若光（こま・じゃっこう）に王（こきし）姓を下賜し、高句麗遺民のリーダーであった高麗若光を祀ったのがこの高麗神社です。朝鮮半島と私達日本人との古くて深い交流を改めて振り返る一時でした。帰りの道路は空いていて、予定より早い17時に無事倶楽部へ帰着雨天と満開には早い花で、少し残念な観梅旅行でした。

（村田・記）

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

上毛新聞桐生支局
飯島氏が懇話会で卓話

懇話会は3月22日(木)、上毛新聞桐生市局長・飯島哲也氏を迎え、「新聞記者の眼から見た桐生」と題する卓話を頂きました。飯島氏は県内各地に赴任していた経験から、高崎・前橋・伊勢崎・館林他の各都市・地区の特徴を詳細に比較分析・紹介して下さり、出席者一同首肯することしきり。桐生に関しては、市内で暮らしている我々にとって当たり前のことが、外から見ると意外に新鮮に見えるとのこと。1300年の歴史の絹織物技術・群馬大工学部・大川美術館・骨董市・買場紗綾市などを例に市民のなかに培われた物づくり・創意工夫の精神が育てた多様な文化の集積が、「桐生」という都市の独自性を形成していることに改めて気付かされました。

飯島氏は「ソースかつ丼」を例に挙げ、夫々の店が、衣の厚み・揚げの温度・食感・ソースとのバランスなど独特の工夫をしていて、他所の町のソースかつ丼とは圧倒的な違いを創り上げているのが「桐生の特長」と評して下さり、次の休日にはソースかつ丼を食したくなりました。ネガティブな話題が多い今日この頃、桐生の創意工夫の精神に光が当てられた懇話会となりました。当日の出席者は5名。　（村田・記）

桐生倶楽部はぐるま句会

一月

新幹線一直線の冬田かな　遠藤　勝久

寒の水一口含み斎場へ　有阪　昌治

初空の青さに染まり深呼吸　大槻　圓珠

絞る手に息吹きかける寒の水　川村　隆

寒の水池の緋鯉の影寒し　塚越　平人

初空や大夕焼けの白浅間　久保田広人

二月

春寒の二言三言立話　遠藤　勝久

鶯の声この谷を満たしけり　大槻　圓珠

母作る二段構への海苔弁当　有阪　昌治

鶯の声ととのいて七・七忌　川村　隆

ひと孫は鶯よりも先に鳴き　塚越　平人

鶯や竹林深き里の山　久保田広人

＝ 倶楽部だより ＝

【2月】
- 社員増強委員会　(8日)
- 理事会　(10日)
- 歩く会世話人会　(18日)
- 月次会「桐生広域圏の不動産事情」　(23日)
- はぐるま会　(25日)
- 歩く会例会「越生観梅・黒山三滝」　(28日)

【3月】
- 理事会　(9日)
- 歩く会世話人会　(11日)
- 歩く会例会「仙人岳」　(14日)
- 美術部会　(16日)
- 月次会「夢の水処理技術」　(18日)
- 懇話会　(25日)
- はぐるま会　(29日)
- 社員増強委員会　(29日)

【新入社員】 増山　智（ますやまさとし）

【退会社員】 なし

社団法人　桐生倶楽部　第176号
２０１０年(平成22年)　4月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印刷　ツボノ印刷株式会社

平成22年6月10日　2010　第177号（1）

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45-2755

さわやか文化祭

新緑の中でガーデンパーティー

桐生倶楽部の文化祭が、ことしも7日から9日までの3日間、開館を主会場に開催された。

2階大広間は、社員や家族の趣味の世界で彩られ、絵画や写真や俳句など、力作がずらり。

9日のガーデンパーティーには95人が参加して、ボサノバの田村ひろさんのギター演奏が流れるなか、薫風に満ちた中庭でおいしい料理を味わいつつ、心ゆくまでふれあいを楽しんだ。

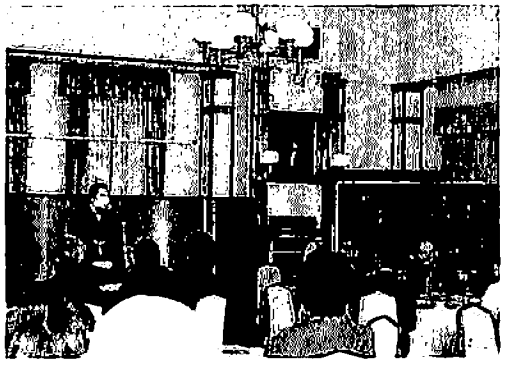
にぎわった文化展会場

ゴルフコンペの参加者

力作そして熱戦 文化祭

桐生倶楽部文化祭の協賛大会の上位入賞者が9日、ガーデンパーティーの席で表彰された。

ゴルフコンペは優勝が腰塚富夫さん、準優勝が森田良徳さん、3位が阿部高久さん、ベスグロ腰塚富夫さん。麻雀大会は優勝が北川洋さん、準優勝が河原井弘さん、3位が藤江篤さん。春季囲碁大会は優勝が岩崎孜郎さん、準優勝が田中義弘さん、3位が岸田信克さん。



月次会報告（4月）

花と酒を愛でながら 落語ライブ盛況

春のサクラとお酒を愛でながら、落語のライブを楽しんでくださいと、4月の月次会は「お花見と落語の集い」。44人が参加して、柳家小蝠さんの「親子酒」をじっくりと堪能した。

のんべえの親子が、せがれの失敗を機に互いに断酒の誓いを立て、それがだんだんあやしくなってくるという庶民一般の生活態度を、おもしろおかしく仕立てた古典の名作。休憩を挟んで2席目も披露し、会場を笑いの渦につつんでいた。

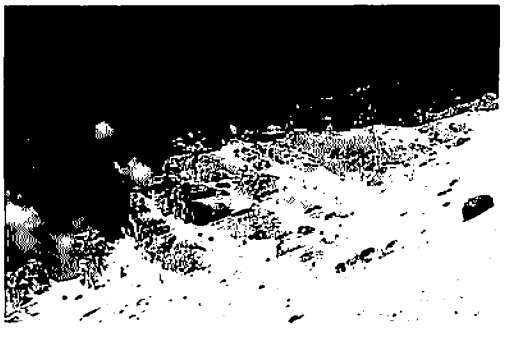
（4月13日、2階広間）

笹川さん旭日大綬章

2010年 春の叙勲

２０１０年春の叙勲で、笹川堯さんが旭日大綬章を受賞しました。おめでとうございます。

笹川さんは１９８６年から連続7回、衆議院議員選挙に当選し、科学技術担当大臣をはじめ国政の中枢で活躍。自民党総務会長もつとめました。



白砂広がる山上

歩く会 5月は日向山

5月16日の桐生倶楽部歩く会は、山梨県の人気スポット「日向山」です。参加人員は、6名とさびしい限りですが、5時5分、桐生倶楽部を出発。圏央道から中央高速道・一般道を経て登山口の矢立石に向かうコース。天候に恵まれ、談合坂を過

ぎた辺りから、新雪で雪化粧をした富士山が左の車窓から見えた。

北杜市に入り、間もなく登山口に着くころには、神々しい姿の甲斐駒ケ岳が、姿を現し期待に胸が膨らんだ。9時過ぎに、矢立石の駐車場に着いたところで、ちょっとしたハプニングがあった。狭い道沿いに、車が並び、マイクロバスがUターンできない。そうこうしているうちに、少し先に広いスペースが見つかり、事なきを得た。

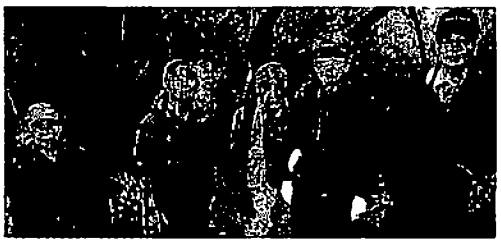
9時16分、登山口をスタート。登山道は広く整備され、広葉樹林の新緑の中を気持ちよく進む。1時間30分ほどで、樹林の中に三角点だけの山頂に到着。分岐へ戻り、樹林帯を抜けると、別世界が、私たちを出迎えてくれた。風化した花崗岩が林立し、白い砂地が広がる雁ヶ原（がんがわら）だ。この光景には参加者全員が、異口同音に歓声をあげた。

八ヶ岳連峰から浅間、秩父の山々が一望でき、振り返れば雲間から覗く雪と岩の甲斐駒ケ岳は、目の前に大迫力でそびえている。ゆっくり昼食をとり、下山は錦滝経由のルートをとる。急斜面の下山となるので、慎重に歩を運ぶ。錦滝を過ぎてしばらく行ったころ、振り返ると甲斐駒ケ岳を覆っていた雲が消え、突き抜けるような青空の中に待望の駒ケ岳が眩いばかりにその姿を現していた。

予定より少し早く車に着いたので、温泉に入ることにした。車で数分の尾白（おじら）の森名水公園ベルガにある尾白の湯。ここは広々した敷地内に施設が充実し、男性露天風呂からは八ヶ岳連峰が、女性のそれからは甲斐駒ケ岳がみえるという絶好のロケーションにあり、一同満足のいく温泉であった。天候・山・風呂に恵まれ、大変贅沢な時を過ごした1日であったことに感謝いたします。

（記　岸田）

角田山、満開の花 4月



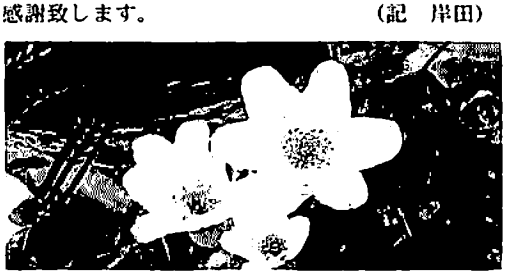
4月11日の桐生倶楽部歩く会山行は、新潟市の角田山（かくだやま）。この山は、海抜481米、奇しくも吾妻山と同じで親しみを覚えるが、花の名山としてつとに聞こえている。雪割草で百名山に選ばれたようだが、ネットによるとかつて7か所にあった群落が盗掘にあい、現在はなくなっているとのこと。

今回の参加者は、10名と少しさびしい人数であるが、定刻前にそろい、一路角田山に向けて出発。北関東自動車道から関越道に乗り、快適にスケジュールを消化していく。下牧を過ぎた頃から、心配された空から小雨が落ちてきた。新潟県に入ると雨脚は激しさを増し、今日のスケジュールの再検討に着手、登山口まで行って判断することで意見の一致を見た。角田浜海水浴場駐車場に着いたころには雨も小雨、桜尾根から山頂へのコースを登る。

いつもの日曜日ならまるで縁日のように込み合う登山路は、雨天のせいか空いていて、予定より早く登ることができた。歩きだして15分過ぎた辺りから、カタクリ・雪割草・キクザキイチゲ・ショウジョウバカマ等の山野草が、道の両側を埋め尽す。想像を絶するその量には、感嘆の声がしきり、とりわけ、カタクリは桐生界隈で見られるものと違い大きく鮮やかだった。晴れていれば、はるか洋上に佐渡島を望めるロケーションであるが、それは次回のお楽しみに。

帰路は往路と反対側の稲島（とうじま）コースを下り、11時30分過ぎに予定を大幅に短縮して下山になった。途中、越後湯沢で温泉につかり、4時20分に桐生倶楽部に到着した。皆様の協力で楽しい思い出を共有することができましたこと、感謝致します。

（記　岸田）



＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

ハンセン病救済 リー女子の生涯

石村さんが卓話

懇話会は５月27日（木）、石村澄江氏を講師に迎え、「ハンセン病救済に生涯を捧げたコーンウォール・リー」と題する卓話をいただきました。

英国貴族の家に生まれたリー女史（1857-1941）は50歳の時英国聖公会の宣教師として来日しました。58歳で初めて草津を訪れてからは、84歳で亡くなるまでの生涯をハンセン病救済に捧げました。

石村氏は歴史に埋もれていたリー女史や看護士・三上千代、医師・服部ケサ等の事績を丹念に掘り起こして、冊子「健康ぐんま」に連載されました。

石村氏は取材研究成果をもとに、リー女史の草津での活躍ぶりを活き活きと語って下さり、出席者一同リー女史や彼女の周辺にいた人々の偉業に改めて感銘しました。　当日の出席者は７名

（村田　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

三月

山晴れてふたたび降るや春の雪　有阪　昌治

春の野の遠去りゆく雪の影　遠藤　勝久

うどの香を味噌汁に愛で朝餉かな　塚越　平人

独活和えを食みて万葉近づきぬ　川村　隆

香り立つ独活たっぷりと煮物鉢　大槻　圓珠

いっせいに芽うど並びし朝の市　久保田広人

四月

若草や登校生の馳けて行き　大槻　圓珠

若草や駿馬地を蹴り嘶けり　有阪　昌治

やせ蛙一茶と共に我もあり　塚越　平人

幸あれと若草の道結納日　川村　隆

花びらの流れに触れてより早し　遠藤　勝久

春愁や亡き人植えし庭に居て　久保田広人

＝ 倶楽部だより ＝

【2月】
- 営繕委員会（２日）
- 写真部（９日）
- 歩く会例会「角田山」（11日）
- 理事会（12日）
- 月次会「お花見と落語のつどい」（13日）
- 歩く会世話人会（15日）
- 正副理事長会議（19日）
- 麻雀大会（24日）
- はぐるま会（28日）

【3月】
- ゴルフコンペ　桐生CC（２日）
- 文化展（7～9日）
- 囲碁大会（８日）
- ガーデンパーティー（９日）
- 理事会（10日）
- 歩く会世話人会（13日）
- 歩く会例会「日向山」（16日）
- 役員特別委員会＆社員増強委員会（17日）
- 営繕委員会（26日）
- 懇話会（27日）
- はぐるま会（27日）

【新入社員】 石原　照久（いしやまてるひさ）

【退会社員】 島田　保彦

社団法人　桐生倶楽部　第177号
２０１０年(平成22年)　6月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印刷　ツボノ印刷株式会社

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45-2755

一般社団法人をめざす

臨時総会で方針を語る阿部理事長

平成22年度臨時社員総会で承認

建物維持などを考え選択

新公益法人制度に基づく社団法人桐生倶楽部のあり方の検討を重ねてきた理事会は、「桐生倶楽部は一般社団法人に移行する」と方針を固め、６月24日に開かれた平成22年度臨時社員総会にこれをはかり、承認されました。出席者は社員総数２５３名中１８３名（委任状１５４）。

同制度は平成20年12月に施行され、桐生倶楽部には公益社団法人か一般社団法人かいずれかの選択が示されました。理事会は、移行に関する所轄官庁である群馬県学事法制課の説明を受けて、公益法人特別検討委員会を設置し、移行認定・認可の要件や事業内容、監督、税制など、詳細の協議を行いました。一般社団法人への移行の選択は、今後の活動や展開や倶楽部建物の維持管理を考えたうえの結論です。平成25年11月30日までに移行申請を行う運びとなっています。

銀座・交詢社を表敬訪問

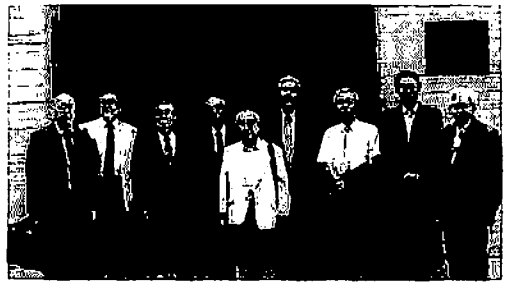
阿部理事長はじめ10人

7月21日（水）10：00阿部理事長はじめ10名の社員が銀座交詢社を表敬訪問しました。

交詢社は明治13年（1880）福沢諭吉が英国の社交クラブをモデルに設立した日本最古の社交クラブです。桐生倶楽部設立に先立つ大正4年（1915）、前原悠一郎・金子竹太郎の両先輩が交詢社他を視察してその設備・経営方法等を調査、我倶楽部のお手本にしました。現在の交詢社ビルは三代目で平成16年（2004）に10階建てのビルに建て替えられ、9・10階と屋上を交詢社が使用しています。昭和4年（1929）に建てられた先代建物のエントランス部装飾の他、旧建物の内装や什器備品などが、交詢社設立130年の風格を損うことなく、丁寧に且つ上手に使用されています。

今回の表敬訪問は喫緊のテーマである公益法人制度改革への対応の他、歴史的建築物の営繕・保存、社員数の増強、倶楽部の運営などに関して改めて交詢社に学ぶことを目的とするものです。交詢社側からは、社員の片岡武史氏、事務局次長の對馬健夫氏のお二人が対応、交詢社内の諸施設を隅から隅まで懇切丁寧に案内・説明をして下さいました。

見学後のカンファレンスでは和気藹々とした雰囲気の中で活発な意見交換となりました。会員を



「社員」という名称で呼ぶことや、桐生倶楽部で行なっている新入社員の審査の際に使用する白黒の碁石の起源が"black ball"（「反対票を投じる」の意）という英国クラブの所作に由来することなど、まぎれもなく交詢社～英国社交クラブの伝統に繋がっていたことを知り、改めて我桐生倶楽部の歴史の重さを実感した次第でした。

2時間に及ぶ有意義な見学＆懇談の後交詢社玄関前で記念写真を撮影して、12：00現地解散しました。当日の訪問参加者は阿部・矢野・山口・松島・佐藤・坪井・江原・大西・山鹿・村田（敬称略）の10名。

書籍『交詢社百年史』『交詢社125年通史』、写真集『交詢社ビルヂング』を購入し、事務局の書庫に収蔵しました。ご興味のある方はご一読下さい。　（文責・村田）

月次会報告

鈴木さん「教育よもやま話」（6月）

6月の月次会は桐生市教育委員長鈴木正三さんの「桐生の教育　よもやま話」を聞いた。

鈴木さんは、新しい教育行政方針を解説しながら、少子化と高齢化が進む中で新しい日本の教育はどうあるべきか、心をはぐくむためにどんな家庭環境、地域力が求められるか、本気で子供と向かい合う親の態度の重要性などを語った。

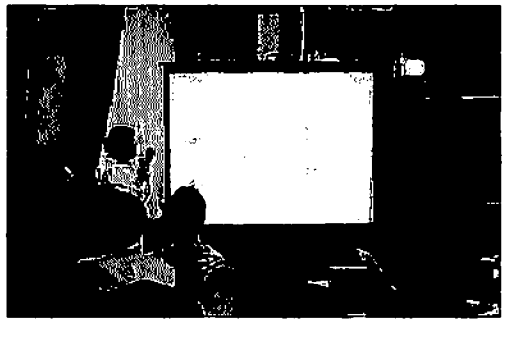
（6月24日、2階大広間、参加者34人）

星野さんが香伝授（7月）

7月の月次会は、「お香は心のお薬です」と題して、桐生市新宿一丁目で「香り屋　尚香堂」を経営する星野尚香さんを講師に招いた。

星野さんは香の歴史をひもときながら、香がもついやしの効果、ゆたかな作用を、実際の香の体験を交えながら、わかりやすく解説してくれた。

（7月20日、2階大広間、参加者31人）



ツツジ満開の小丸山 6月の歩く会

6月6日、袈裟丸山を上に見て梅雨入り前のハイキングは天気に恵まれ、女性4人、男性5人の計9人は車2台に分乗して午前6：35桐生倶楽部出発した。「群界尾根コース登山口」へ通じる道が通行止めのため、「折場口から小丸山（1676米）」へのコースに変更になり、そのまま西山林道を「折場登山口」へ。

山仕度を整え8：00スタート。急登15分程度で見通しの良い尾根歩きとなり、左側に群界尾根を見乍ら登山道はピンク、白のツツジが美しい。4人の美女達は思い思いに花をバックにしてスナップ写真。疲れを感じることもなく、9：10「賽の河原」着。小休止の後、袈裟丸山（前袈裟・1878米）を左前方に見て60分程のゆっくり歩きで10：15予定変更した「小丸山」の頂上へ到着。1株だけ咲いていたシャクナゲの花等を楽しみ乍ら、10：50遠くに雲が出て来たので早めに下山開始。11：35「賽の河原」、12：40「折場口」と全員怪我もなく完歩。帰路は大滝を見物、更に水沼温泉センターに立ち寄ってゆっくり汗を流す。帰りの車中では山口先生の物理光学や海外出張の折の学会の話等をうかがい乍ら、3：30桐生倶楽部へ帰着。楽しい休日の山行となりました。　（中里　記）

コクマサの本白根山 7月の歩く会

7月25日、昨夜の雨が嘘のような快晴。バスは5：30桐生倶楽部出発。参加者10名。8：10には殺生河原にある白根火山ロープウェイ山麓駅に到着。ロープウェイの運行は9：00からとのことで急遽予定を変更して標高2,000米の白根レストハウス駐車場迄バスを進める。装備を整えて（靴とスティック程度ですが）9：20に駐車場を出発。アスファルトの林道を15分程歩くとロープウェイ山頂駅脇に到着、ロープウェイに乗った登山客が駅から出てくる。ここから30分程はコメツガやシラビソの樹林帯を木の階段をダラダラ登り、視界が開けるとそこは噴火口跡のハイマツ帯。更に進むといよいよ本日のお目当てのコクマサのお花畑、僅かに盛りを過ぎたかな？という程度でまずまずの満足度。写真などを撮りながらゆっくり歩いて遊歩道最高地点（2,150米）に到着したのが10：20、陽が翳ると気温は24度と随分涼しい。相当早めの昼食タイムで30分の休憩。お天気にも助けられた楽しい夏の休日でした。　（村田　記）

美術部が初夏の鑑賞会

桐生倶楽部美術部は2010年初夏の美術鑑賞会を行ない9人の参加者で、今話題の丸の内に復元された三菱一号館の美術館を訪れて、19世紀のパリの文化の一角をなした印象派の作家マネとモダン・パリの都市と形成を回想する、良き時代の感情と雰囲気を堪能して楽しみました。

同館の中庭でさわやかな木漏れ日の木陰に憩い昼食を済ませてから、国立新美術館へむかい、ここでもパリの誇るオルセー美術館展2010「ポスト印象展」を心ゆくまで鑑賞し堪能いたしました。

（保倉　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

五月

奥利根の流れ豊かに夏霞　遠藤　勝久

連なりて通学生徒麦の秋　大槻　圓珠

春踏みの話だけ聞く子供達　塚越　平人

針金を肩より抜きて金花の寺　川村　隆

渦煙や八十路集へる金花の雨　有阪　昌治

盆場と云はるる山や嶮奥の金花　久保田広人

六月

解禁日左岸右岸に夏帽子　有阪　昌治

連ねたる鋸屋根を青嵐　大槻　圓珠

還暦を迎へてもなほ夏帽子　川村　隆

はしゃぐ子の声高らかにあおあらし　塚越　平人

一と列車三百人の夏帽子　遠藤　勝久

野彿に声かけず行く青嵐　久保田広人

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

＝ 倶楽部だより ＝

【6月】
- 歩く会例会「袈裟丸山」　(6日)
- 歩く会世話人会　(10日)
- 美術部会「美術鑑賞会」　(13日)
- 正副理事会　(14日)
- 理事会　(14日)
- 月次会「桐生の教育　よもや話」　(24日)
- 臨時社員総会　(24日)
- はぐるま句会　(28日)

【7月】
- 理事会　(12日)
- 月次会「お香は心のお薬です」　(20日)
- 交詢社見学　(21日)
- 歩く会例会「本白根山」　(25日)
- 社員増強委員会　(26日)
- はぐるま句会　(27日)
- 歩く会世話人　(29日)

【新入社員】・新井 晴夫・星野 榮助・野沢 八千万・久保田 寿栄・柳 明彦・彦部 篤夫・向田 靖

【退会社員】・東和銀行・船田 清・中野 宏一・斉藤 憲一

社団法人　桐生倶楽部　第178号
２０１０年(平成22年)　８月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成22年10月10日　2010　第179号（1）

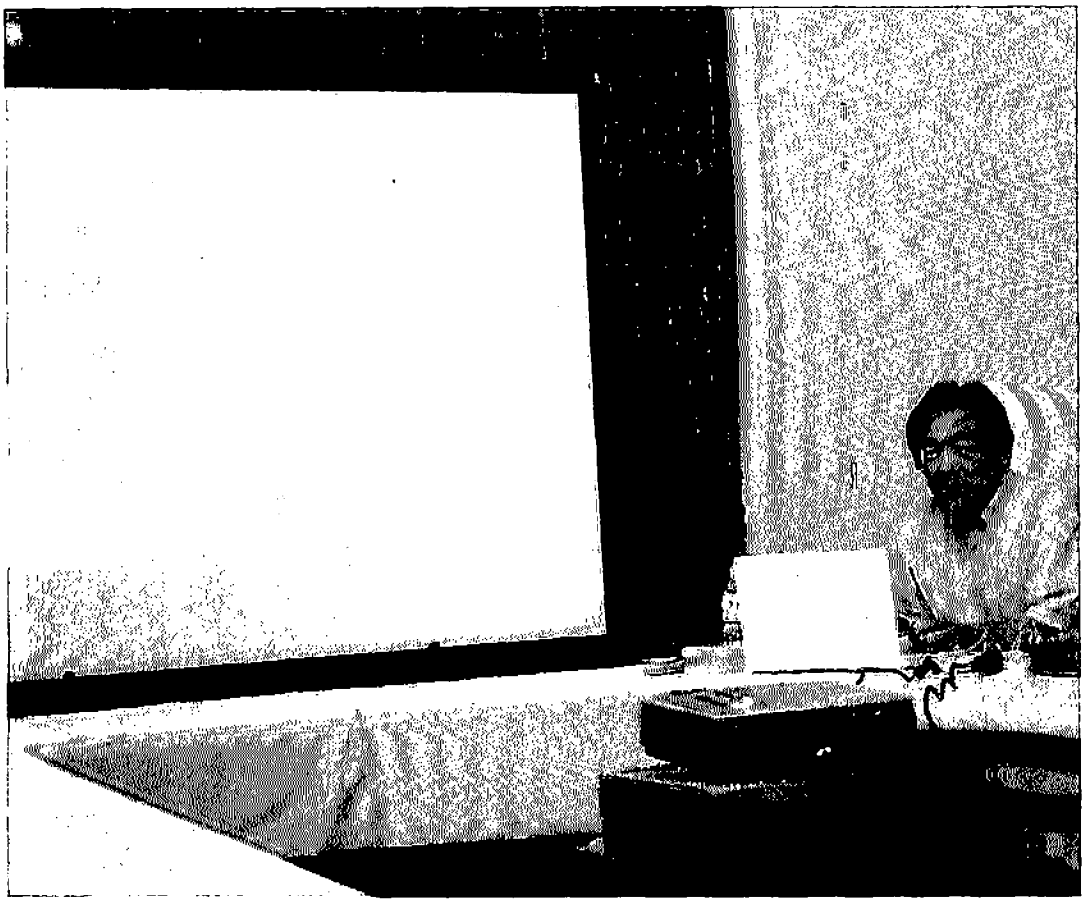
桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45-2755

圓文百虎朱雀錦（えんもん　びゃっこ　すじゃく　にしき）

桐生倶楽部の4号室のテーブルクロスがこのほど新調されました。経錦織の「紅牙瑞錦」「圓文百虎朱雀」の2枚で、社員の伝統工芸師・江原毅さんの仕事です。写真は「圓文百虎朱雀」。江原さんから寄贈されました。（詳細は4面掲載）

「きけ　わだつみのこえ」を読み解く



倶楽部懇話会で村田さんが卓話

映像まじえて その背景にせまる

懇話会は8月26日（木）、社員の村田豊樹氏が、昭和24年（1949）に出版されたベストセラー「きけ　わだつみのこえ」をテーマにした卓話をしました。この本は第二次世界対戦に学徒出陣した戦没学生75名の日記・手記・書簡を収めた遺稿集です。

村田氏は永らくこのことを研究されていて、昭和6年の柳条湖事件から昭和20年の敗戦までを一連の戦争だったとして、研究者達は「十五年戦争」または「アジア太平洋戦争」と呼んでいること、日本を含めこの戦争でアジア各国での戦没者は2千万とも3千万とも言われていて、いまだにはっきりとした人数が把握されていないことが語られました。

また、昭和18年10月21日に神宮外苑で行われた「学徒出陣壮行会」や、昭和19年10月から行われるようになった「特攻」のことなどが、映像を交え時代背景を説明しながら語られ、本書に収められた戦没学徒の遺稿のいくつかが紹介されました。

この戦争はいったい何だったのか？本書の編集者・小田切秀雄の言葉「戦争によって流された血は再び決して流されないようにすること以外によってしか償われない」を最後に、出席者全員で戦没者の方々に黙祷を捧げて閉会しました。

（山鹿　記）

原子力、維新の歴史も

歩く会9月定例会、茨城方面へバスの旅

9月度倶楽部月次会は歩く会が担当して、茨城県ひたちなか市方面を旅行しました。9月12日、前日までの猛暑の日々が一転涼しい朝を迎えてバスは6：15桐生倶楽部を出発、参加者17名。

最初の訪問地原子力科学館では原子力の基礎知識からはじまり、CTスキャンやMRI等医療機の仕組みの他、食品へのX線照射など身近な原子力利用について、館の担当者から解り易く説明を受けました。国営ひたち海浜公園は戦争中は陸軍飛行学校の在った所、戦後は長らく米軍の射爆撃場でした。平成3年に153ヘクタールの広大な公園として生まれ変わりました。1年を通して花々に溢れるとのこと。この日大平洋を望む「みはらしの丘」では、モコモコとした緑のコキアが不思議な景色でした。皆さんは観覧車や園内周遊のシーサイドトレインに乗って童心にかえっての一時を過ごしました。昼食は那珂湊漁港に隣接する「お魚市場」でフリータイム。回転寿司や和食食堂で新鮮なお魚料理の食事、お土産の買い物、海辺の散策を楽しんだりの一時でした。

「幕末と明治の記念館」は、明治天皇の宮内大臣を勤めた田中光顕（1843－1939）が維新烈士の顕彰を目的に昭和4年に開いた「常陽明治記念館」が前進。田中は、今年のNHK大河ドラマ前半の主人公の一人武市半平太をリーダーとする土佐勤皇党のメンバーでもありました。館内では武市が描いた水墨画「竹の図」や藤田東湖の書の他、大正天皇の宸筆（しんぴつ）など文字通りの「お宝」に目を見張りました。因みに、聖蹟桜ヶ丘にある「多摩聖蹟記念館」も田中光顕が建てたものです。最後の訪問地は潮風香る大洗磯前神社に参拝。帰路ほとんど渋滞もなく、予定通りの18：30桐生倶楽部に帰着。過ごしやすいお天気にも助けられた楽しい初秋の休日でした。

（村田　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

七月

風鈴や縁で拡げる夕刊紙　大槻　圓珠

日の落ちて夜店の世界始まりし　遠藤　勝久

廃屋の風鈴チリンと鳴りにけり　川村　隆

健康のしろしにすなる日焼かな　塚越　平人

日焼顔長竿両手に友釣師　有阪　昌治

日焼せし顔も絞ぶ大漁旗　久保田広人

八月

胸反らせ花道帰る勝相撲　大槻　圓珠

雨足の音を枕に盆休　有阪　昌治

送り火が強き風にて消えにけり　塚越　平人

送り火の跡の土器二つかな　遠藤　勝久

畦道を姉弟の運ぶ西瓜かな　川村　隆

西瓜切る宿題のことあと廻し　久保田広人

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

圓文百虎朱雀錦について

「圓文白虎朱雀錦」は８月に寄贈されました。経錦織の絹100％。以下は江原さんの説明です。

本品の原本は法隆寺に伝来する奈良朝或はそれ以前の織物でありまして、この錦の織法は遠く漢代に源を発すると言われています。ペルシャ式の圓文に囲まれた白色の奇獣は中国古代伝説でいう西位の神獣白虎であり、赤い鳥は南位の朱雀であります。圓文と圓文との間に配された動物は鹿と馬であります。圓文の唐草を中心にこれら動物を組み合わせた紋様は法隆寺の壁画やその他当時の工芸品に現れたものと全く同じ系統のもので唐時代に流行した「圓型と十字形」を組合わせた構図であります。この裂は、我が国では後世茶器の袋などに多く利用されています。

※訂正「はぐるま句会」１７８号掲載分に誤りがありました。お詫びして、再掲載します。

五月

麦踏みの話だけ聞く子供達　塚越　平人

針金を肩より抜きて余花の寺　川村　隆

渦煙や八十路集へる余花の雨　有阪　昌治

霊場と云はるる山や陸奥の余花　久保田広人

六月

野佛に声かけず行く青嵐　久保田広人

＝ 倶楽部だより ＝

【8月】
- 理事会　(10日)
- 美術部会　(21日)
- 公益法人特別委員会　(25日)
- はぐるま句会　(26日)
- 懇話会　(26日)

【9月】
- 歩く会例会「ひたち海浜公園と那珂湊」　(12日)
- 理事会　(13日)
- 歩く会世話人会　(16日)
- 社員増強委員会　(27日)
- 営繕委員会　(27日)
- はぐるま句会　(29日)

【新入社員】・松枝 幹・片貝 良一

【退会社員】・多田 明

社団法人　桐生倶楽部　第179号
２０１０年(平成22年)　９月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　　刷　ツボノ印刷株式会社

平成22年12月10日　2010　第180号（1）

桐生倶楽部会報

〒376-0035 桐生市仲町2-9-36　社団法人　桐生倶楽部　TEL　45-2755

秋色の黒斑山に登る

～歩く会10月例会～

10月10日（日）、昨日来の雨が降り続く中午前5時30分、さすが桐生倶楽部歩く会のメンバー参加者1人も欠ける事なく10名、時間どおりに集合、黒斑山を目指して出発しました。

午前8時車坂峠に到着。この頃には雨も上がり、全員登山支度をして登り始める。車坂峠は標高2,000米あり、黒斑山（2,404米）との標高差は404米。今日登る表コースは道が整備されて歩きやすく、特に危険を感じる場所もなく快調に歩き、午前10時15分に黒斑山山頂に到達。

途中の山々は紅葉で赤、黄に色づき始めていてとても素晴らしい景色でした。昼食にはまだ早く、全員歩き足りないとの事で蛇骨岳（2,366米）まで尾根伝いに行く。蛇骨岳では雲切れ間から嬬恋方面がきれいに見え、緑が映える景色を楽しみながら昼食をとり休憩しました。

帰りは中コースを下山し、午後1時30分車坂峠に到着。ここにある高峰高原ホテルで入浴。標高2,000米の温泉は雲の上に遠く富士山、八ヶ岳、北アルプスが望め、山行の疲れが癒されました。

今回は残念ながら浅間山はとうとう顔を出さず心残りでしたので、次回もう一度黒斑山に登ろうと話し合い、帰路につきました。

とにかくみなさん、ニュースをよく知っています

背景にかつてない世界情勢

萩谷順教授が月次会で講演

11月の月次会は30日、テレビ朝日の「スーパーJチャンネル」や「たけしのTVタックル」などの番組でニュースコメンテーターとして活躍している萩谷順氏を招き、「昨今の報道番組とその裏話」をテーマにお話をうかがいました。

萩谷氏は元朝日新聞記者で、現在は法政大学法学部教授。専攻はドイツ現代政治、マス・コミュニケーション論で、全国各地から依頼される講演も多く、忙しい日々が続いています。

こうした講演で求められるテーマが近年、質的に大きく変わってきていることを萩谷氏は感じているそうです。その背景にあるのは、尖閣諸島の問題や国後島、北朝鮮と韓国のこと、さらにはTPP（環太平洋経済連携協定）をどう受け入れていくかなど、かつて体験したことのない世界情勢の中に日本が置かれているという事情です。

「とにかくみなさん、いろんなニュースをよく知っています」と萩谷氏。しかし、そうした情報を得る手段は特に若い学生の場合、100人いれば新聞は2人、テレビが10人、多くは携帯を通じたインターネットであり、「聞けばニュースが走っている」という時代のすごさだと語りました。

萩谷氏はその手段について、一つの情報をプロが吟味し評価し、事実を知らせ、何があったのかを解説し、論評していくのが新聞だが、自分から見にいかなければ情報は得られないし、読むにはコツがいると述べ、一方インターネットで流れる無料のニュースは「一報は知っても、それがどういう意味なのか、これが難しい」といい、さらに、ニュースをわかりやすく伝えるという面で果たしてきたテレビの役割についてもご自身の体験から忌憚のない思いを語ってくれました。

またブログやツイッターなどを例にとり、凄まじい量の匿名情報が個人から発信され、個人が受けるという関係が成立していることの危うさにもふれた萩谷氏ですが、質のいい情報を手に入れようとすれば、個人のそういう需要を察知してそこに導いてくれるような昨日は、インターネットの世界ではますます充実していくはずだ、とも。

こういう時代にコメンテーターとして求められるものを、常に意識しながら、何かと気疲れの多い舞台裏のようです。最後には、「最近、むかしの大岡越前などの番組で正義が勝つという話をみるといちばんほっとする」と、現代社会の難しい局面についてこんな感想を述べ、締めくくりました。（2階大広間、参加者51人）

大展望の備前楯山

歩く会11月定例会

小滝の里は鮮やかな紅葉

11月の桐生倶楽部歩く会は、足尾の「備前楯山」です。目的地が近いということで、遅めの8時集合。参加者10人は自家用車3台に分乗し、定刻の出発となった。

R122を日光方面へ進み、日光市内のわたらせ渓谷鐵道の高架を目前に左折し、一路銀山平へ向かう。車を進め、谷が深まるにつれ紅葉は見事さを増し「小滝の里」付近では、最高潮に達した。その色の鮮やかさは、心を十分に癒してくれるものだった。

登山口のかじか荘の駐車場を9：16、山頂目指して出発。林道を2キロ歩き、舟石峠に到着。ここから山頂まで1.3キロ・標高差200米が登山道となっている。急な登りも少なく、快適なスペースで歩行し、11時過ぎに山頂へ着く。山頂からの眺めは素晴らしく、男体山をはじめとする日光連山、皇海山を盟主とする足尾の山々を指呼の距離に、また幾重にも連なる遠方の山並を一望できる大展望の山だった。

山頂はハイキング日和の上に狭いことも手伝って、賑やかだったので、少し下った平坦地で、楽しい早めの昼食をとる。かじか荘に戻り、風呂に浸かって山行の疲労を解きほぐした。予定より1時間早い午後3時倶楽部帰着。お天気に恵まれ、山にも温泉にも恵まれて、至福の時を過ごした1日となった。

ところで、「どうして足尾に『備前楯山』があるの？」という素朴な疑問にお答えします。登山口にある謂れを記した立て看板によると、江戸時代初期、銅鉱脈を発見した人の出身地が備前（現在の岡山県南東部）で、露頭している銅鉱石を「楯」と言ったので、その名が付いたとのことです。

（岸田　記）

桐生倶楽部はぐるま句会

九月

葛の花くぐり流れる桐生川　塚越　平人

先人の石器の遺跡木の実降る　遠藤　勝久

杣道の倒木越えて葛の花　川村　隆

少年の頃より怯え音大将　大槻　圓珠

秋澄むや空にくつきり遠赤城　有阪　昌治

人の世の次は何の世穴まどい　久保田広人

十月

籠のもの並べて鋭い茸狩　大槻　圓珠

落人の里とや茸狩もよし　遠藤　勝久

名人も私も空の茸狩　川村　隆

身に入むや来し方吾の誕生日　有阪　昌治

茸狩り蜂の羽音を気にしつつ　塚越　平人

身に入むや何処に行くのか救急車　久保田広人

＝ 新入社員紹介 ＝

（敬称略）

[redacted]

自らに課するテーマは「観察力と想像力」

10月28日の懇話会例会は桐生タイムス社・青木修氏を講師に迎え、「地方記者の目から見た桐生」と題した卓話を頂きました。青木氏は昭和52年に桐生タイムス社へ入社、記者を経て現在は論説委員を務めておられます。氏は30年余の記者生活を振り返り、郡大工学部や桐生倶楽部に関する事柄の他、春の白鳥北帰行や、高空を行くアマツバメ（群馬ではヤマツバメ）の南帰行のことから桐生上空が北関東有数の「風の道」であること知ったことなどを例に、取材を通して「行き合った人人」に桐生に関する多くのことを教えられて今の自分があると話されました。

青木は現在は自らに対して「観察力と想像力」をテーマと課し、溢れる多くの情報の中から、現場に足を運んで自分の目で確かめたものを、自分の頭の中で分析・整理・想像して論説を書くことに努めているとのことです。

青木氏はアメリカ人神学者ラインホルト・ニーバーの変えられるものを変える勇気を、変えられないことを受け容れる冷静さを、そしてこの二つを見分けることのできる知恵を」という言葉を紹介して卓話を締めくくりました。当日の出席者10名。　（村田　記）

＝ 倶楽部だより ＝

【10月】・歩く会月次例会「黒斑山」　(10日)
・理事会　(12日)
・歩く会世話人会　(14日)
・月次会「人と野生動物」　(26日)
・はぐるま句会　(28日)
・懇話会　(28日)
・公益法人特別委員会定款部会　(28日)

【11月】・美術鑑賞会　(7日)
・理事会　(9日)
・写真部会　(11日)
・歩く会月次例会「備前楯山」　(14日)
・正副理事長議会　(15日)
・公益法人特別委員会会計部会　(15日)
・歩く会世話人会　(18日)
・ゴルフコンペ「桐生カントリー」　(23日)
・はぐるま句会　(26日)
・文化活動委員会　(26日)
・月次会「昨今の報道番組とその裏話」　(30日)

【新入社員】・池田 有子・須藤 忠雄

【退会社員】・北川 紘一郎・山口 隆久・山根 恒利

社団法人　桐生倶楽部　第180号
２０１０年(平成22年)　12月発行
発行人　阿部高久
編集責任者　前原　勝
印　刷　ツボノ印刷株式会社